

とうはくハイツ改修(第1期)工事

図面番号	図面名称	図面番号	図面名称	図面番号	図面名称
A - 0	タイトル、図面リスト	A - 1 5	改修前 2～5階3DK-B平面詳細図	E - 1	電気設備工事 特記仕様書（ 1 ）
A - 1	建築改修工事 特記仕様書（ 1 ）	A - 1 6	改修後 2～5階3DK-B平面詳細図	E - 2	電気設備工事 特記仕様書（ 2 ）
A - 2	建築改修工事 特記仕様書（ 2 ）	A - 1 7	改修前 1DK 展開図-2	E - 3	1階照明器具設備図
A - 3	建築改修工事 特記仕様書（ 3 ）	A - 1 8	改修後 1DK 展開図-2	E - 4	2～5階照明器具設備図
A - 4	建築改修工事 特記仕様書（ 4 ）	A - 1 9	改修前 3DK-B 展開図-3	E - 5	R階照明器具設備図
A - 5	建築改修工事 特記仕様書（ 5 ）	A - 2 0	改修後 3DK-B 展開図-3	E - 6	改修前 照明器具表
A - 6	建築改修工事 特記仕様書（ 6 ）	A - 2 1	矩計図	E - 7	改修後 照明器具表
A - 7	建築改修工事 特記仕様書（ 7 ）	A - 2 2	改修前・改修後 建具表	E - 8	2～5階通信線路設備図
A - 8	建築改修工事 特記仕様書（ 8 ）	A - 2 3	建具改修 詳細図	E - 9	各系統図
A - 9	配置図	A - 2 4	ユニットバス 仕様書・詳細図		
A - 1 0	1階平面図	A - 2 5	仮設図1		
A - 1 1	2～5階平面図	A - 2 6	仮設図2	M - 1	機械設備工事 特記仕様書（ 1 ）
A - 1 2	R階平面図			M - 2	機械設備工事 特記仕様書（ 2 ）
A - 1 3	改修前・改修後 仕上表			M - 3	2～5階給排水衛生設備図
A - 1 4	立面図			M - 4	衛生器具表

(有)アーク設計工房 琴浦事務所

4
1

外壁改修工事（共通事項）

4

エポキシ樹脂モルタル
[4.2.4]

品質性能等
接着強さ：1.0N/mm²以上
圧縮強さ：20.0N/mm²以上
曲げ強さ：3日後の値 10N/mm²以上
1)こて塗りが容易で、かつ、硬化後の仕上がりが良好であること。
2)均質で有害と認められる異物の混入がないこと。
3)「労働安全衛生法」に基づく「有機溶剤中毒予防規則」に規定された第一種有機溶剤を使用しないこと。
4)形状に異常がなく、だれが生じないこと。
5)常温・常湿（温度5～35℃、湿度45～85％）において製造所の指定する期間又は製造後6ヶ月保存した後であっても、上記品質性能等の規定に適合していること。
試験方法
イ）試験室の状態：温度23±2℃、湿度50±5％を標準状態とする。
ロ）試験体個数：3個
ハ）試験の調整：標準状態で試験室に保管した末期及び硬化剤を製造所の定める割合で採取し、十分に攪拌する。
ニ）外観：ハ）の試料を清浄なガラス板に均一に塗布し、均質性と異物の混入の有無を観察。
ホ）圧縮強さ：JIS R 5201「セメントの物理試験方法」の10.4により試験体を作成し、10.1(4)に規定する試験機で10.5により測定し、10.6により求める。
ヘ）曲げ強さ：JIS R 5201「セメントの物理試験方法」の10.4に準じ試験体を作成する。
10.1(5)に規定する試験機により、支点間100mmとし、供試体を成形したときの側面の中央に毎秒50 N/sの割合で載荷し最大荷重 P(N)を求め、P×0.00234= b の式で求める。
ト）比重：曲げ試験体の寸法と重量を測定して求める。
チ）接着強さ：JIS A 5371「ポリマー無筋コンクリート製品」の附属書 B（規定）及び推奨仕様 B-1に規定する普通平板の表面を清浄し、その上面に縦40mm、横40mm、厚さ10mmの鉄片を張り付けて単軸引張りを加える。最大荷重（P）を断面積（A）で除して求める。
テ）だれ試験：JIS A 5371の附属書B（規定）及び推奨仕様B-1に規定する普通平板の表面を清浄して、その上に厚さ30mm、幅100mm、長さ50mmの寸法にエポキシ樹脂モルタルを塗り付け、塗付け開始から5分後に、平らに置かれた平板を直角に立て起し、そのままの状態で静置する。24時間後のエポキシ樹脂モルタルの変形状態を観測し、その形状の異常の有無とだれ長さを測定する。

5

ポリマーセメントスラリー
[4.2.4]

品質性能等
注入試験：拡がり速さ3cm/s以上、粘附係数0.5～1.0
保水試験：保水係数0.35～0.55
長さ変化試験：長さ変化率3％以下（収縮）
引張接着強さ：0.5N/mm²以上（28日材齢）
吸水率：15％以下（72時間）
劣化曲げ強さ：5.0N/mm²以上

6

吸水調整材
[4.3.5]

改修標準仕様書表4.3.2による

7

既製調合モルタル
[4.3.5]

モルタル下地としたタイル工事に使用する張付け用モルタルとして、セメント、細骨材、混和剤等を予め工場において所定の割合に配合した材料とする。
品質性能等
保水率：70％以上
単位容積質量：1.8kg/L以上
接着強さ：標準時 0.6N/mm²以上、温冷繰り返し後 0.4N/mm²以上
長さ変化率：0.2％以下
曲げ強さ：4.0N/mm²以上
試験方法
イ）試料の調製
製造業者の定める、正味質量と標準練り上がり量より換算し、所定量の試料とする。
練り混ぜは、JIS R 5201「セメントの物理試験方法」の9.1に規定する練り混ぜ機を使用し、練りばちを用いた水を入れ、攪拌しながら30秒間に材料を投入し、3分間練り混ぜて試料とする。
ロ）保水率
JIS R 3202「フロート板ガラス及び磨き板ガラス」に規定するみがき板ガラス（縦150mm、横150mm、厚さ5mm）の上にJIS P 3801「ろ紙（化学分析用）」に規定する5 Aろ紙（直径11cm）をせ、その中央部に真ちゅう製リング型わく（内径50mm、高さ10mm、厚さ3mm）を設置し、イ）で調製した試料を平滑に詰込む。
その後、直ちにリング型わく上部にガラス板を当てて上下を送さしにし、ろ紙部分が上部になるようにして静置する。60分後にろ紙へじみ出した水分の広がり最大と認められた方向とこれに直角な方向の長さをノギスを用いて、1mmの単位まで測定する。
試験は3回実施し、その平均値を用いて次式により保水率を求める。
保水率＝50/平均値×100（注） 50：リング型わくの径 mm
ハ）単位容積質量
JIS A 1171「ポリマーセメントモルタルの試験方法」に準ずる。
二）標準時の接着強さ
1. 適用タイルが「モザイクタイル」の場合
（試験体の作製）JIS A 5371「プレキャスト無筋コンクリート製品」の附属書 B（規定）及び推奨仕様 B-1に規定する普通平板 N-300を下地板とし、表面をサンドペーパーを用いて軽く研磨した後、水浸しを行い直ちにイ）で調製した試料を厚さ5mmになるように塗付ける。直ちにJIS A 5209「セラミックタイル」に規定する外装型モザイクタイルで乾式成形の類（施ゆう）「50角ユニットタイル（外の寸法約300mm×300mm）」を圧着する。その後、28日間、温度20±2℃、湿度80％以上の状態で湿空養生を行い、これを試験体とする。
（試験方法）JIS A 6909「建築用仕上塗材」の7.9付着強さ試験に準じて行う。試験体をダイヤモンドカッターを用いて、タイル周辺に沿って下地板に達するまで切り込みを入れ、エポキシ樹脂接着剤で調製アタッチメントを接着し、引張試験機を用いて接着強さ試験を行う。なお、接着強さの測定箇所は、試験体の中からまんべんなく5箇所を選び抜き取る。（全てが0.6N/mm²以上）
2. 適用タイルが「小口タイル・二丁掛タイル」の場合
（試験体の作製）JIS A 5371「プレキャスト無筋コンクリート製品」の附属書 B（規定）及び推奨仕様 B-1に規定する普通平板 N-300を下地板とし、表面をサンドペーパーを用いて軽く研磨した後、水浸しを行い直ちにイ）で調製した試料を厚さ7mmになるように塗付ける。直ちに JIS A 5209「セラミックタイル」に規定する外装型モザイクタイルで乾式成形の類（施ゆう）「小口タイル108mm×60mm×12mm」を4枚2列、計8枚を圧着する。
その後、28日間、温度20±2℃、湿度80％以上の状態で湿空養生を行い、これを試験体とする。
（試験方法）「モザイクタイル」の場合と同様に行う。
ホ）温冷繰り返し後の接着強さ
（試験体の作製）「モザイクタイル」及び「小口タイル・二丁掛タイル」とも、各々ニ）接着強さ（標準時）の試験方法の「試験体」と同様とする。
（温冷繰り返し試験）「モザイクタイル」及び「小口タイル・二丁掛タイル」とも、各々JIS A6909「建築用仕上塗材」の7.10温冷繰り返し試験に準じて行う。
試験の手順は、試験体を20±2℃の水中に18時間浸せしした後、直ちに±20±2℃の恒温器中で3時間冷却し、次いで50±2℃の別の恒温器中で3時間加熱し、この24時間を1サイクルとする操作を10回繰返した後、試験室に2時間静置し、ひび割れ及びひび割れの有無を目視によって調べる。
（温冷繰り返し後の接着強さ試験方法）「モザイクタイル」及び「小口タイル・二丁掛タイル」とも、各々温冷繰り返し試験完了後の試験体を標準状態で2日間静置養生した後、標準時の接着強さ試験方法と同様に行う。（全てが0.4N/mm²以上）
ヘ）長さ変化率
JIS A 6203「セメント混和用ポリマーディスページョン及び再乳化粉未樹脂」9.9 長さ変化率に準ずる。
ト）曲げ強さ
JIS A 6916「建築用下地調整塗材」7.11 曲げ強さ試験に準ずる。

4
2

外壁改修工事（コンクリート打放し仕上げ外壁）

1

ひび割れ部改修工法
[4.1.4]
[4.2.4～7]

樹脂注入工法
工法の種類
ひび割れ幅（mm）
注入口間隔（mm）
注入量（mL/m）
A 自動式低圧エポキシ樹脂注入工法
0.2以上0.3未満
200～300
40
0.3以上0.5未満
40
0.5以上1.0未満
70
B 手動式エポキシ樹脂注入工法
0.2以上0.3未満
50～100
40
0.3以上0.5未満
100～200
70
C 機械式エポキシ樹脂注入工法
0.5以上1.0未満
150～250
130
D 機械式エポキシ樹脂注入工法
0.5以上1.0未満
150～250
130
注入状況の確認方法
注入量により確認
・コアの採取を行う
・コア採取の個数 長さ50mごと及びその端数につき1個
・コア採取部の補修方法 ポリマーセメントモルタル充填
・ウレタン樹脂材
・シーリング材
充填材料 1 成形又は 2 成形ポリウレタン系
・シーリング材の上にポリマーセメントモルタルの充填 行う 行わない
可とう性エポキシ樹脂
・シール工法
パテ状エポキシ樹脂 可とう性エポキシ樹脂
充填工法
欠損部充填材
ポリマーセメントモルタル エポキシ樹脂モルタル

2

欠損部改修工法
[4.1.4]
[4.2.4, 8]

「下記以外は 4-2 コンクリート打放し仕上げ外壁による。」
モルタルを撤去して改修
樹脂注入工法 シール工法 ウレタン樹脂材充填工法
モルタル撤去後のモルタル欠損部の補修は、2 欠損部改修工法による。
・モルタルを撤去しないで改修
樹脂注入工法 シール工法 ウレタン樹脂材充填工法

4

外壁覆合改修構工法

平成7年度建設省告示第1860号による「外壁覆合改修構工法の開発」において、建設大臣の技術評価を得得した工法とする。

4
3

外壁改修工事（モルタル塗仕上げ外壁）

1

ひび割れ部改修工法
[4.1.4]
[4.3.5～8]

「下記以外は 4-2 コンクリート打放し仕上げ外壁による。」
モルタルを撤去して改修
樹脂注入工法 シール工法 ウレタン樹脂材充填工法
モルタル撤去後のモルタル欠損部の補修は、2 欠損部改修工法による。
・モルタルを撤去しないで改修
樹脂注入工法 シール工法 ウレタン樹脂材充填工法

2

欠損部改修工法
[4.1.4]
[4.3.9, 10]

充填工法（欠損部の面積が0.25㎡/箇所程度以下の場合）
充填材の種類 ポリマーセメントモルタル エポキシ樹脂モルタル
・モルタル塗替え工法
現場調査材料 既調査材料
既製目地材 使用する（形状）
仕上げ厚又は全塗厚が25mmを超える場合の措置 図示

3

浮き部改修工法
[4.1.4]
[4.3.11～16]

モルタルを撤去しないで改修
・アンカーピンニング部分エポキシ樹脂注入工法
・アンカーピンニング全面エポキシ樹脂注入工法
・アンカーピンニング全面ポリマーセメントスラリー注入工法
注入口付アンカーピンニング部分エポキシ樹脂注入工法
・注入口付アンカーピンニング全面エポキシ樹脂注入工法
・注入口付アンカーピンニング全面ポリマーセメントスラリー注入工法
アンカーピンの材質 ステンレス鋼（SUS304）呼び径4mmの丸棒で全ネジ切り加工をしたもの
・モルタルを撤去して改修
モルタルの材料 現場調査材料 既調査材料
充填工法 エポキシ樹脂モルタル ・ポリマーセメントモルタル
・モルタル塗替え工法 既製目地材 使用する（形状）
仕上げ厚又は全塗厚が25mmを超える場合の措置 図示

4

外壁覆合改修構工法

平成7年度建設省告示第1860号による「外壁覆合改修構工法の開発」において、建設大臣の技術評価を得得した工法とする。

4
4

外壁改修工事（タイル張り仕上げ外壁）

1

ひび割れ部改修工法
[4.1.4]
[4.2.4～7]

樹脂注入工法
工法の種類
ひび割れ幅（mm）
注入口間隔（mm）
注入量（mL/m）
A 自動式低圧エポキシ樹脂注入工法
0.2以上0.3未満
200～300
40
0.3以上0.5未満
40
0.5以上1.0未満
70
B 手動式エポキシ樹脂注入工法
0.2以上0.3未満
50～100
40
0.3以上0.5未満
100～200
70
C 機械式エポキシ樹脂注入工法
0.5以上1.0未満
150～250
130
D 機械式エポキシ樹脂注入工法
0.5以上1.0未満
150～250
130
注入状況の確認方法
注入量により確認
・コアの採取を行う
・コア採取の個数 長さ50mごと及びその端数につき1個
・コア採取部の補修方法 ポリマーセメントモルタル充填
・ウレタン樹脂材
・シーリング材
充填材料 1 成形又は 2 成形ポリウレタン系
・シーリング材の上にポリマーセメントモルタルの充填 行う 行わない
可とう性エポキシ樹脂
・シール工法
パテ状エポキシ樹脂 可とう性エポキシ樹脂
充填工法
欠損部充填材
ポリマーセメントモルタル エポキシ樹脂モルタル

2

欠損部改修工法
[4.1.4]
[4.2.4, 8]

「下記以外は 4-2 コンクリート打放し仕上げ外壁による。」
モルタルを撤去して改修
樹脂注入工法 シール工法 ウレタン樹脂材充填工法
モルタル撤去後のモルタル欠損部の補修は、2 欠損部改修工法による。
・モルタルを撤去しないで改修
樹脂注入工法 シール工法 ウレタン樹脂材充填工法

4

外壁覆合改修構工法

平成7年度建設省告示第1860号による「外壁覆合改修構工法の開発」において、建設大臣の技術評価を得得した工法とする。

4
5

外壁改修工事（塗仕上げ外壁）

1

ひび割れ部改修工法
[4.1.4]
[4.2.4～7]

樹脂注入工法
工法の種類
ひび割れ幅（mm）
注入口間隔（mm）
注入量（mL/m）
A 自動式低圧エポキシ樹脂注入工法
0.2以上0.3未満
200～300
40
0.3以上0.5未満
40
0.5以上1.0未満
70
B 手動式エポキシ樹脂注入工法
0.2以上0.3未満
50～100
40
0.3以上0.5未満
100～200
70
C 機械式エポキシ樹脂注入工法
0.5以上1.0未満
150～250
130
D 機械式エポキシ樹脂注入工法
0.5以上1.0未満
150～250
130
注入状況の確認方法
注入量により確認
・コアの採取を行う
・コア採取の個数 長さ50mごと及びその端数につき1個
・コア採取部の補修方法 ポリマーセメントモルタル充填
・ウレタン樹脂材
・シーリング材
充填材料 1 成形又は 2 成形ポリウレタン系
・シーリング材の上にポリマーセメントモルタルの充填 行う 行わない
可とう性エポキシ樹脂
・シール工法
パテ状エポキシ樹脂 可とう性エポキシ樹脂
充填工法
欠損部充填材
ポリマーセメントモルタル エポキシ樹脂モルタル

2

欠損部改修工法
[4.1.4]
[4.2.4, 8]

「下記以外は 4-2 コンクリート打放し仕上げ外壁による。」
モルタルを撤去して改修
樹脂注入工法 シール工法 ウレタン樹脂材充填工法
モルタル撤去後のモルタル欠損部の補修は、2 欠損部改修工法による。
・モルタルを撤去しないで改修
樹脂注入工法 シール工法 ウレタン樹脂材充填工法

4

外壁覆合改修構工法

平成7年度建設省告示第1860号による「外壁覆合改修構工法の開発」において、建設大臣の技術評価を得得した工法とする。

4
6

外壁改修工事（タイル張り仕上げ外壁）

1

ひび割れ部改修工法
[4.1.4]
[4.2.4～7]

樹脂注入工法
工法の種類
ひび割れ幅（mm）
注入口間隔（mm）
注入量（mL/m）
A 自動式低圧エポキシ樹脂注入工法
0.2以上0.3未満
200～300
40
0.3以上0.5未満
40
0.5以上1.0未満
70
B 手動式エポキシ樹脂注入工法
0.2以上0.3未満
50～100
40
0.3以上0.5未満
100～200
70
C 機械式エポキシ樹脂注入工法
0.5以上1.0未満
150～250
130
D 機械式エポキシ樹脂注入工法
0.5以上1.0未満
150～250
130
注入状況の確認方法
注入量により確認
・コアの採取を行う
・コア採取の個数 長さ50mごと及びその端数につき1個
・コア採取部の補修方法 ポリマーセメントモルタル充填
・ウレタン樹脂材
・シーリング材
充填材料 1 成形又は 2 成形ポリウレタン系
・シーリング材の上にポリマーセメントモルタルの充填 行う 行わない
可とう性エポキシ樹脂
・シール工法
パテ状エポキシ樹脂 可とう性エポキシ樹脂
充填工法
欠損部充填材
ポリマーセメントモルタル エポキシ樹脂モルタル

2

欠損部改修工法
[4.1.4]
[4.2.4, 8]

「下記以外は 4-2 コンクリート打放し仕上げ外壁による。」
モルタルを撤去して改修
樹脂注入工法 シール工法 ウレタン樹脂材充填工法
モルタル撤去後のモルタル欠損部の補修は、2 欠損部改修工法による。
・モルタルを撤去しないで改修
樹脂注入工法 シール工法 ウレタン樹脂材充填工法

4

外壁覆合改修構工法

平成7年度建設省告示第1860号による「外壁覆合改修構工法の開発」において、建設大臣の技術評価を得得した工法とする。

4
7

外壁改修工事（タイル張り仕上げ外壁）

1

ひび割れ部改修工法
[4.1.4]
[4.2.4～7]

樹脂注入工法
工法の種類
ひび割れ幅（mm）
注入口間隔（mm）
注入量（mL/m）
A 自動式低圧エポキシ樹脂注入工法
0.2以上0.3未満
200～300
40
0.3以上0.5未満
40
0.5以上1.0未満
70
B 手動式エポキシ樹脂注入工法
0.2以上0.3未満
50～100
40
0.3以上0.5未満
100～200
70
C 機械式エポキシ樹脂注入工法
0.5以上1.0未満
150～250
130
D 機械式エポキシ樹脂注入工法
0.5以上1.0未満
150～250
130
注入状況の確認方法
注入量により確認
・コアの採取を行う
・コア採取の個数 長さ50mごと及びその端数につき1個
・コア採取部の補修方法 ポリマーセメントモルタル充填
・ウレタン樹脂材
・シーリング材
充填材料 1 成形又は 2 成形ポリウレタン系
・シーリング材の上にポリマーセメントモルタルの充填 行う 行わない
可とう性エポキシ樹脂
・シール工法
パテ状エポキシ樹脂 可とう性エポキシ樹脂
充填工法
欠損部充填材
ポリマーセメントモルタル エポキシ樹脂モルタル

2

欠損部改修工法
[4.1.4]
[4.2.4, 8]

「下記以外は 4-2 コンクリート打放し仕上げ外壁による。」
モルタルを撤去して改修
樹脂注入工法 シール工法 ウレタン樹脂材充填工法
モルタル撤去後のモルタル欠損部の補修は、2 欠損部改修工法による。
・モルタルを撤去しないで改修
樹脂注入工法 シール工法 ウレタン樹脂材充填工法

4

外壁覆合改修構工法

平成7年度建設省告示第1860号による「外壁覆合改修構工法の開発」において、建設大臣の技術評価を得得した工法とする。

4
8

外壁改修工事（タイル張り仕上げ外壁）

1

ひび割れ部改修工法
[4.1.4]
[4.2.4～7]

樹脂注入工法
工法の種類
ひび割れ幅（mm）
注入口間隔（mm）
注入量（mL/m）
A 自動式低圧エポキシ樹脂注入工法
0.2以上0.3未満
200～300
40
0.3以上0.5未満
40
0.5以上1.0未満
70
B 手動式エポキシ樹脂注入工法
0.2以上0.3未満
50～100
40
0.3以上0.5未満
100～200
70
C 機械式エポキシ樹脂注入工法
0.5以上1.0未満
150～250
130
D 機械式エポキシ樹脂注入工法
0.5以上1.0未満
150～250
130
注入状況の確認方法
注入量により確認
・コアの採取を行う
・コア採取の個数 長さ50mごと及びその端数につき1個
・コア採取部の補修方法 ポリマーセメントモルタル充填
・ウレタン樹脂材
・シーリング材
充填材料 1 成形又は 2 成形ポリウレタン系
・シーリング材の上にポリマーセメントモルタルの充填 行う 行わない
可とう性エポキシ樹脂
・シール工法
パテ状エポキシ樹脂 可とう性エポキシ樹脂
充填工法
欠損部充填材
ポリマーセメントモルタル エポキシ樹脂モルタル

2

欠損部改修工法
[4.1.4]
[4.2.4, 8]

「下記以外は 4-2 コンクリート打放し仕上げ外壁による。」
モルタルを撤去して改修
樹脂注入工法 シール工法 ウレタン樹脂材充填工法
モルタル撤去後のモルタル欠損部の補修は、2 欠損部改修工法による。
・モルタルを撤去しないで改修
樹脂注入工法 シール工法 ウレタン樹脂材充填工法

4

外壁覆合改修構工法

平成7年度建設省告示第1860号による「外壁覆合改修構工法の開発」において、建設大臣の技術評価を得得した工法とする。

4
9

外壁改修工事（塗仕上げ外壁）

1

ひび割れ部改修工法
[4.1.4]
[4.2.4～7]

樹脂注入工法
工法の種類
ひび割れ幅（mm）
注入口間隔（mm）
注入量（mL/m）
A 自動式低圧エポキシ樹脂注入工法
0.2以上0.3未満
200～300
40
0.3以上0.5未満
40
0.5以上1.0未満
70
B 手動式エポキシ樹脂注入工法
0.2以上0.3未満
50～100
40
0.3以上0.5未満
100～200
70
C 機械式エポキシ樹脂注入工法
0.5以上1.0未満
150～250
130
D 機械式エポキシ樹脂注入工法
0.5以上1.0未満
150～250
130
注入状況の確認方法
注入量により確認
・コアの採取を行う
・コア採取の個数 長さ50mごと及びその端数につき1個
・コア採取部の補修方法 ポリマーセメントモルタル充填
・ウレタン樹脂材
・シーリング材
充填材料 1 成形又は 2 成形ポリウレタン系
・シーリング材の上にポリマーセメントモルタルの充填 行う 行わない
可とう性エポキシ樹脂
・シール工法
パテ状エポキシ樹脂 可とう性エポキシ樹脂
充填工法
欠損部充填材
ポリマーセメントモルタル エポキシ樹脂モルタル

2

欠損部改修工法
[4.1.4]
[4.2.4, 8]

「下記以外は 4-2 コンクリート打放し仕上げ外壁による。」
モルタルを撤去して改修
樹脂注入工法 シール工法 ウレタン樹脂材充填工法
モルタル撤去後のモルタル欠損部の補修は、2 欠損部改修工法による。
・モルタルを撤去しないで改修
樹脂注入工法 シール工法 ウレタン樹脂材充填工法

4

外壁覆合改修構工法

平成7年度建設省告示第1860号による「外壁覆合改修構工法の開発」において、建設大臣の技術評価を得得した工法とする。

4
10

外壁改修工事（塗仕上げ外壁）

1

ひび割れ部改修工法
[4.1.4]
[4.2.4～7]

樹脂注入工法
工法の種類
ひび割れ幅（mm）
注入口間隔（mm）
注入量（mL/m）
A 自動式低圧エポキシ樹脂注入工法
0.2以上0.3未満
200～300
40
0.3以上0.5未満
40
0.5以上1.0未満
70
B 手動式エポキシ樹脂注入工法
0.2以上0.3未満
50～100
40
0.3以上0.5未満
100～200
70
C 機械式エポキシ樹脂注入工法
0.5以上1.0未満
150～250
130
D 機械式エポキシ樹脂注入工法
0.5以上1.0未満
150～250
130
注入状況の確認方法
注入量により確認
・コアの採取を行う
・コア採取の個数 長さ50mごと及びその端数につき1個
・コア採取部の補修方法 ポリマーセメントモルタル充填
・ウレタン樹脂材
・シーリング材
充填材料 1 成形又は 2 成形ポリウレタン系
・シーリング材の上にポリマーセメントモルタルの充填 行う 行わない
可とう性エポキシ樹脂
・シール工法
パテ状エポキシ樹脂 可とう性エポキシ樹脂
充填工法
欠損部充填材
ポリマーセメントモルタル エポキシ樹脂モルタル

2

欠損部改修工法
[4.1.4]
[4.2.4, 8]

「下記以外は 4-2 コンクリート打放し仕上げ外壁による。」
モルタルを撤去して改修
樹脂注入工法 シール工法 ウレタン樹脂材充填工法
モルタル撤去後のモルタル欠損部の補修は、2 欠損部改修工法による。
・モルタルを撤去しないで改修
樹脂注入工法 シール工法 ウレタン樹脂材充填工法

4

外壁覆合改修構工法

平成7年度建設省告示第1860号による「外壁覆合改修構工法の開発」において、建設大臣の技術評価を得得した工法とする。

4
11

外壁改修工事（塗仕上げ外壁）

1

ひび割れ部改修工法
[4.1.4]
[4.2.4～7]

樹脂注入工法
工法の種類
ひび割れ幅（mm）
注入口間隔（mm）
注入量（mL/m）
A 自動式低圧エポキシ樹脂注入工法
0.2以上0.3未満
200～300
40
0.3以上0.5未満
40
0.5以上1.0未満
70
B 手動式エポキシ樹脂注入工法
0.2以上0.3未満
50～100
40
0.3以上0.5未満
100～200
70
C 機械式エポキシ樹脂注入工法
0.5以上1.0未満
150～250
130
D 機械式エポキシ樹脂注入工法
0.5以上1.0未満
150～250
130
注入状況の確認方法
注入量により確認
・コアの採取を行う
・コア採取の個数 長さ50mごと及びその端数につき1個
・コア採取部の補修方法 ポリマーセメントモルタル充填
・ウレタン樹脂材
・シーリング材
充填材料 1 成形又は 2 成形ポリウレタン系
・シーリング材の上にポリマーセメントモルタルの充填 行う 行わない
可とう性エポキシ樹脂
・シール工法
パテ状エポキシ樹脂 可とう性エポキシ樹脂
充填工法
欠損部充填材
ポリマーセメントモルタル エポキシ樹脂モルタル

2

欠損部改修工法
[4.1.4]
[4.2.4, 8]

「下記以外は 4-2 コンクリート打放し仕上げ外壁による。」
モルタルを撤去して改修
樹脂注入工法 シール工法 ウレタン樹脂材充填工法
モルタル撤去後のモルタル欠損部の補修は、2 欠損部改修工法による。
・モルタルを撤去しないで改修
樹脂注入工法 シール工法 ウレタン樹脂材充填工法

4

外壁覆合改修構工法

平成7年度建設省告示第1860号による「外壁覆合改修構工法の開発」において、建設大臣の技術評価を得得した工法とする。

4
12

外壁改修工事（塗仕上げ外壁）

1

ひび割れ部改修工法
[4.1.4]
[4.2.4～7]

樹脂注入工法
工法の種類
ひび割れ幅（mm）
注入口間隔（mm）
注入量（mL/m）
A 自動式低圧エポキシ樹脂注入工法
0.2以上0.3未満
200～300
40
0.3以上0.5未満
40
0.5以上1.0未満
70
B 手動式エポキシ樹脂注入工法
0.2以上0.3未満
50～100
40
0.3以上0.5未満
100～200
70
C 機械式エポキシ樹脂注入工法
0.5以上1.0未満
150～250
130
D 機械式エポキシ樹脂注入工法
0.5以上1.0未満
150～250
130
注入状況の確認方法
注入量により確認
・コアの採取を行う
・コア採取の個数 長さ50mごと及びその端数につき1個
・コア採取部の補修方法 ポリマーセメントモルタル充填
・ウレタン樹脂材
・シーリング材
充填材料 1 成形又は 2 成形ポリウレタン系
・シーリング材の上にポリマーセメントモルタルの充填 行う 行わない
可とう性エポキシ樹脂
・シール工法
パテ状エポキシ樹脂 可とう性エポキシ樹脂
充填工法
欠損部充填材
ポリマーセメントモルタル エポキシ樹脂モルタル

2

欠損部改修工法
[4.1.4]
[4.2.4, 8]

「下記以外は 4-2 コンクリート打放し仕上げ外壁による。」
モルタルを撤去して改修
樹脂注入工法 シール工法 ウレタン樹脂材充填工法
モルタル撤去後のモルタル欠損部の補修は、2 欠損部改修工法による。
・モルタルを撤去しないで改修
樹脂注入工法 シール工法 ウレタン樹脂材充填工法

4

外壁覆合改修構工法

平成7年度建設省告示第1860号による「外壁覆合改修構工法の開発」において、建設大臣の技術評価を得得した工法とする。

4
13

外壁改修工事（塗仕上げ外壁）

1

ひび割れ部改修工法
[4.1.4]
[4.2.4～7]

樹脂注入工法
工法の種類
ひび割れ幅（mm）
注入口間隔（mm）
注入量（mL/m）
A 自動式低圧エポキシ樹脂注入工法
0.2以上0.3未満
200～300
40
0.3以上0.5未満
40
0.5以上1.0未満
70
B 手動式エポキシ樹脂注入工法
0.2以上0.3未満
50～100
40
0.3以上0.5未満
100～200
70
C 機械式エポキシ樹脂注入工法
0.5以上1.0未満
150～250
130
D 機械式エポキシ樹脂注入工法
0.5以上1.0未満
150～250
130
注入状況の確認方法
注入量により確認
・コアの採取を行う
・コア採取の個数 長さ50mごと及びその端数につき1個
・コア採取部の補修方法 ポリマーセメントモルタル充填
・ウレタン樹脂材
・シーリング材
充填材料 1 成形又は 2 成形ポリウレタン系
・シーリング材の上にポリマーセメントモルタルの充填 行う 行わない
可とう性エポキシ樹脂
・シール工法
パテ状エポキシ樹脂 可とう性エポキシ樹脂
充填工法
欠損部充填材
ポリマーセメントモルタル エポキシ樹脂モルタル

2

欠損部改修工法
[4.1.4]
[4.2.4, 8]

「下記以外は 4-2 コンクリート打放し仕上げ外壁による。」
モルタルを撤去して改修
樹脂注入工法 シール工法 ウレタン樹脂材充填工法
モルタル撤去後のモルタル欠損部の補修は、2 欠損部改修工法による。
・モルタルを撤去しないで改修
樹脂注入工法 シール工法 ウレタン樹脂材充填工法

4

外壁覆合改修構工法

平成7年度建設省告示第1860号による「外壁覆合改修構工法の開発」において、建設大臣の技術評価を得得した工法とする。

4
14

外壁改修工事（塗仕上げ外壁）

1

ひび割れ部改修工法
[4.1.4]
[4.2.4～7]

樹脂注入工法
工法の種類
ひび割れ幅（mm）
注入口間隔（mm）
注入量（mL/m）
A 自動式低圧エポキシ樹脂注入工法
0.2以上0.3未満
200～300
40
0.3以上0.5未満
40
0.5以上1.0未満
70
B 手動式エポキシ樹脂注入工法
0.2以上0.3未満
50～100
40
0.3以上0.5未満
100～200
70
C 機械式エポキシ樹脂注入工法
0.5以上1.0未満
150～250
130
D 機械式エポキシ樹脂注入工法
0.5以上1.0未満
150～250
130
注入状況の確認方法
注入量により確認
・コアの採取を行う
・コア採取の個数 長さ50mごと及びその端数につき1個
・コア採取部の補修方法 ポリマーセメントモルタル充填
・ウレタン樹脂材
・シーリング材
充填材料 1 成形又は 2 成形ポリウレタン系
・シーリング材の上にポリマーセメントモルタルの充填 行う 行わない
可とう性エポキシ樹脂
・シール工法
パテ状エポキシ樹脂 可とう性エポキシ樹脂
充填工法
欠損部充填材
ポリマーセメントモルタル エポキシ樹脂モルタル

2

欠損部改修工法
[4.1.4]
[4.2.4, 8]

「下記以外は 4-2 コンクリート打放し仕上げ外壁による。」
モルタルを撤去して改修
樹脂注入工法 シール工法 ウレタン樹脂材充填工法
モルタル撤去後のモルタル欠損部の補修は、2 欠損部改修工法による。
・モルタルを撤去しないで改修
樹脂注入工法 シール工法 ウレタン樹脂材充填工法

4

外壁覆合改修構工法

平成7年度建設省告示第1860号による「外壁覆合改修構工法の開発」において、建設大臣の技術評価を得得した工法とする。

4
15

外壁改修工事（塗仕上げ外壁）

1

ひび割れ部改修工法
[4.1.4]
[4.2.4～7]

樹脂注入工法
工法の種類
ひび割れ幅（mm）
注入口間隔（mm）
注入量（mL/m）
A 自動式低圧エポキシ樹脂注入工法
0.2以上0.3未満
200～300
40
0.3以上0.5未満
40
0.5以上1.0未満
70
B 手動式エポキシ樹脂注入工法
0.2以上0.3未満
50～100
40
0.3以上0.5未満
100～200
70
C 機械式エポキシ樹脂注入工法
0.5以上1.0未満
150～250
130
D 機械式エポキシ樹脂注入工法
0.5以上1.0未満
150～250
130
注入状況の確認方法
注入量により確認
・コアの採取を行う
・コア採取の個数 長さ50mごと及びその端数につき1個
・コア採取部の補修方法 ポリマーセメントモルタル充填
・ウレタン樹脂材
・シーリング材
充填材料 1 成形又は 2 成形ポリウレタン系
・シーリング材の上にポリマーセメントモルタルの充填 行う 行わない
可とう性エポキシ樹脂
・シール工法
パテ状エポキシ樹脂 可とう性エポキシ樹脂
充填工法
欠損部充填材
ポリマーセメントモルタル エポキシ樹脂モルタル

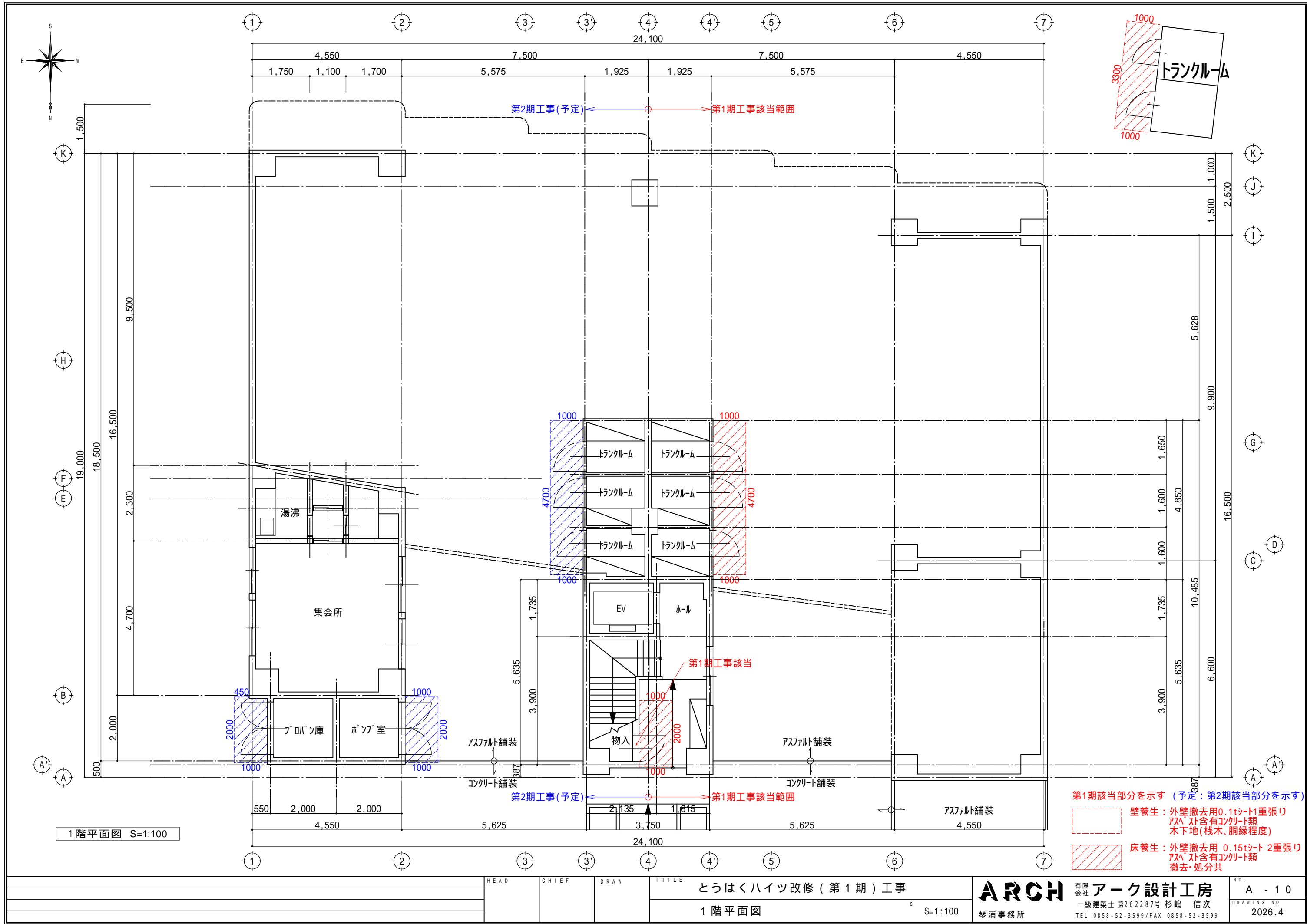
2

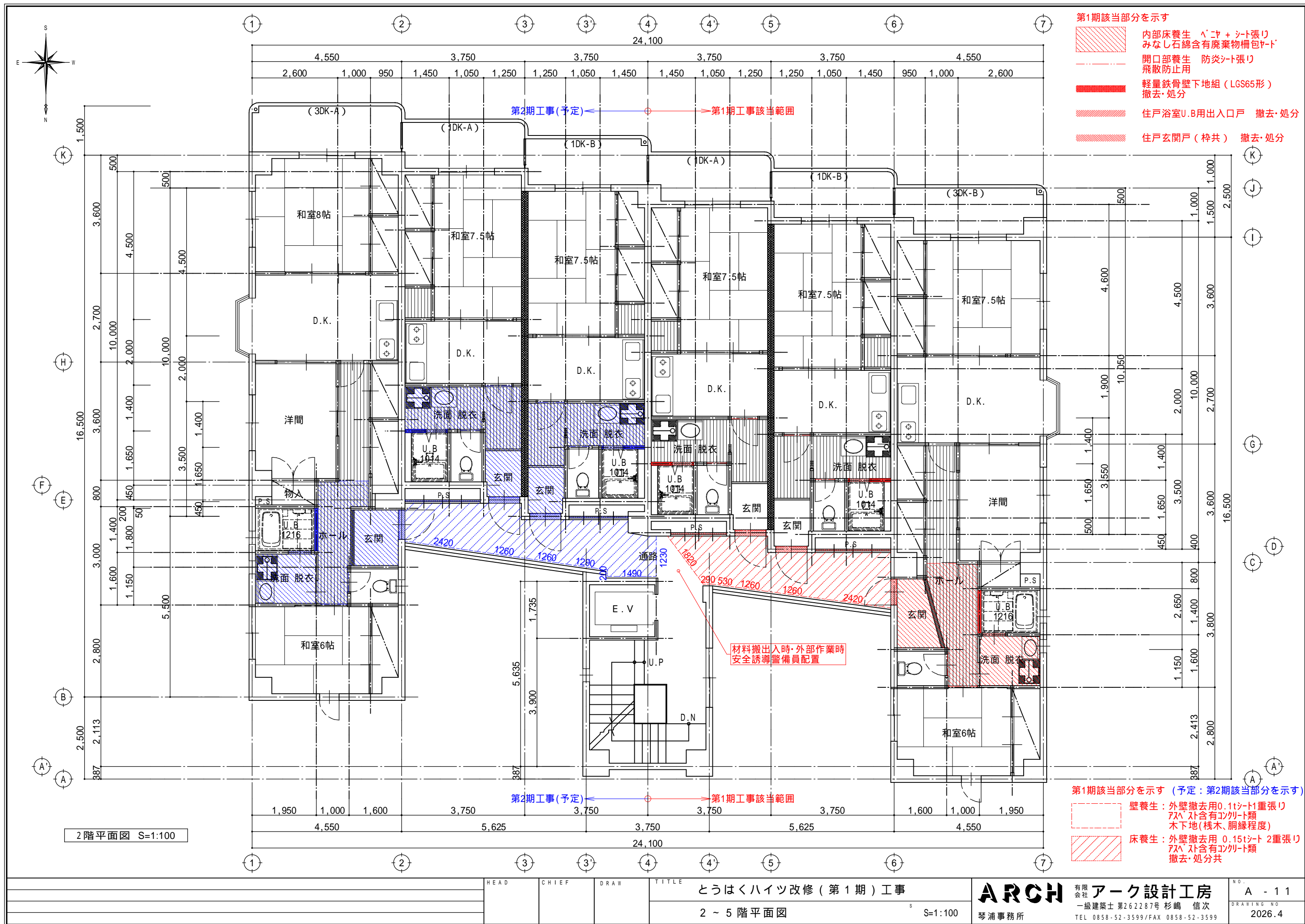
欠損部改修工法
[4.1.4]
[4.2.4, 8]

「下記以外は 4-2 コンクリート打放し仕上げ外壁による。」
モルタルを撤去して改修
樹脂注入工法 シール工法 ウレタン樹脂材充填工法
モルタル撤去後のモルタル欠損部の補修は、

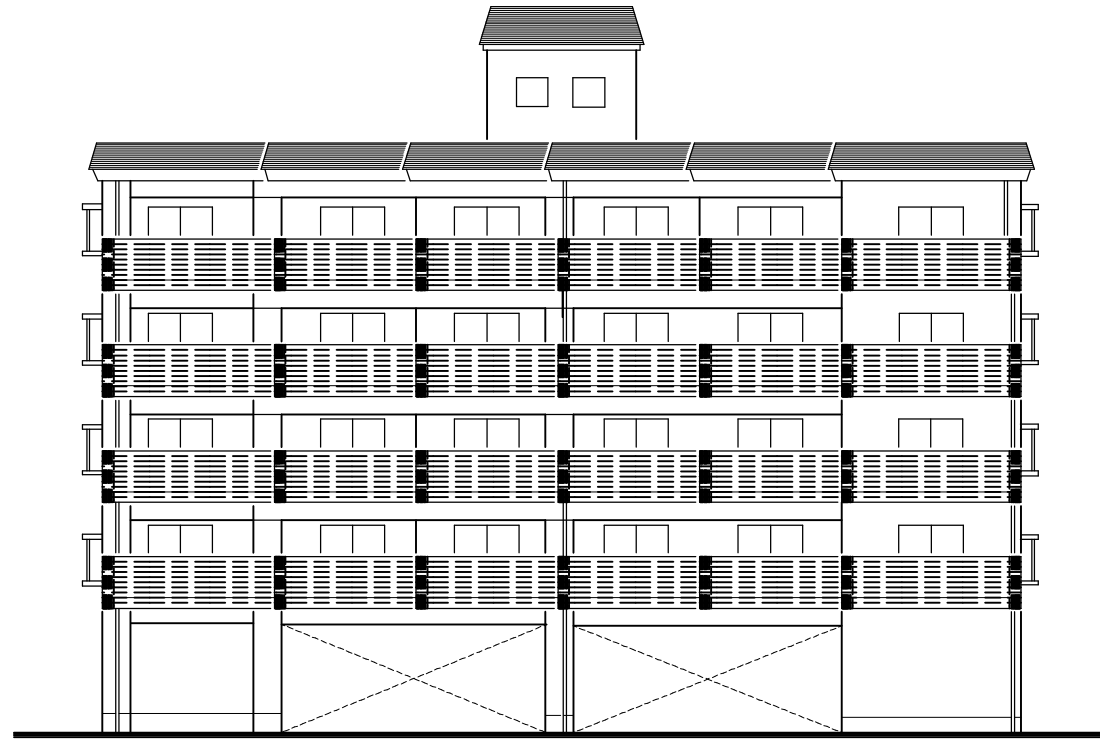
[illegible]

[illegible]





外壁仕上表			- 工事概要 -									
改修前	複層塗材E(3層)、コンクリート打放し下地 セメント系下地調整材(アスベスト含有)		○ 本工事は4通～7通(別添図面参照)部分について工事を行う									
改修後	既存のまま(建具改修部を除く)		○ 本工事は7か月の工期を想定している									
撤去部	鋼製建具取替え部		○ 本工事該当部分には居住者はいないが、工事区域外の居住者の通行には留意する									
	外壁吹付材：防水形複層塗材E (ゆず肌状、ローラー、水系リタツツやあり)		○ 前面道路(北側)は東側から西側への一方通行となっている									
床養生	ビニシート0.15t 2重張		○ 改修工事では材料搬入に垂直式荷揚げ機を使用するが、巻上機の講習が必要となる									
壁養生	ビニシート0.1t 1重張、木下地(胴縁程度)		○ 本工事は内部改修工事を主とするが、外部建具改修(建具周囲外壁改修共)工事を含む									
			○ 外部建具改修工事において外壁吹付下地調整材はアスベスト含有建材である									
			○ 外壁(吹付材共)の撤去範囲は建具枠(上下、左右)より幅50mmとする									
			○ 建具枠周囲(上、左右:W=50)撤去は集塵装置付ディスクラインダークット + ハンドブレーカ研り(湿潤化)とする 負圧なし									
			○ 外部建具改修工事では住戸玄関:12ヶ所、P.S部:8ヶ所、トランクルーム:5ヶ所、1F倉庫:1ヶ所、RF出入口:1ヶ所を対象とする									
			○ 外部建具改修工事において住戸玄関戸部の既存室名札は撤去・処分とし、アルミ製210×74を新設とする									
			○ 内部建築改修工事では2階～5階の3DK-B×4戸、1DK×8戸の合計12戸を対象とする									
			○ 内部建築改修工事では玄関鋼製ドア、ユニットバスの取替えを行うが、撤去材の搬出に際して一部内壁改修を行う									
			○ 内壁改修工事においてユニットバスはアスベストを含まない。内壁撤去材の石こうボード12tはみなしアスベスト建材としている。									
			○ 電気設備改修工事では付随する照明器具の取替えを行う(LED照明器具への取替え、機械設備器具関連部改修)									
			○ 機械設備改修工事では洗面化粧台、洗濯機パン、腰掛便器、屋外壁掛ガス給湯器(附属品共)の取替えを行う									
内部仕上表 (各 3DK・1K共通)												
室名		床	巾木	腰	H	壁	階	天井	CH	廻縁	備考	
階段室 通路	改修前	防水モルタル金コテ押え30t (排水溝W=100 仕上同上) 段鼻タイル152×60(階段)	防水モルタル金コテ押え H=100	コンクリート打放し 吹付タイルE		同 左	2F～4F 5F～RF	コンクリート打放し アクリルリシン吹付			階段室連絡板：ステンレス枠込0.8t 720×480 集合郵便受(1026×494×300 12個用×2個)	
	改修後	既存のまま	既存のまま	既存のまま		同 左	2F～4F 5F～RF	既存のまま			既存のまま	
玄 関	改修前	長尺塩ビシート2.0t張り 下地：防水モルタル金コテ押え30t	ソフト巾木 H=100～130	ビニールクロス張り 下地：PB12t(一部GL工法)		同 左	2F～4F 5F～RF	化粧石膏ボード9t張り(ジブトン) (梁型)ビニールクロス張り PB12t下地(GL工法) 軽量鉄骨天井下地	2,200		上り框：90×105(メルサワ)CL塗	
	改修後	SD-1部一部撤去のうえ塩ビシート2t(FS)張り	既存のまま	既存のまま		同 左	2F～4F 5F～RF	既存のまま	2,200		既存SD-1撤去のうえ新設(建具表参照) 既存室名札：樹脂製210×125 撤去・処分 新設室名札：アルミ製(ナツKS-N20AS程度) 210×74、4文字	
ホール (廊下)	改修前	複合フロアー12t張り 下地：ネダフォーム95t	ソフト巾木 H=60	ビニールクロス張り 下地：PB12t(一部GL工法)		同 左	2F～4F 5F～RF	化粧石膏ボード9t張り(ジブトン) 一部 ビニールクロス張り PB9t下地 軽量鉄骨天井下地	2,100			
	改修後	既存のまま	図示部撤去のうえ 新設 ソフト巾木H=60	図示部撤去のうえ新設 ビニールクロス張り 下地LGS65、PB12.5t(一部ソーシング)		同 左	2F～4F 5F～RF	既存のまま	2,100			
洗面・脱衣室	改修前	(3DK)長尺塩ビシート2.0t張り コンパネ12t下地 (1K)複合フロアー12t張り ネダフォーム95t下地	ソフト巾木 H=60	ビニールクロス張り(一部 100角タイル) 下地：耐水PB12t(一部 GL工法)	1,100	ビニールクロス張り 下地：PB12t(一部 GL工法) (3DK)ビニールクロス張り ベニヤ5.5t下地	2F～4F 5F～RF	化粧石膏ボード9t張り(ジブトン) (梁型)ビニールクロス張り PB12t下地(GL工法) 軽量鉄骨天井下地	2,100		洗面ユニット、洗濯パン(設備工事) 手すり：TS113A6	
	改修後	既存のまま	一部撤去のうえ新設 ソフト巾木H=60	図示部撤去のうえ新設 ビニールクロス張り (一部100角タイル接着張り) 下地LGS65、PB12.5t(一部ソーシング)		同 左	2F～4F 5F～RF	既存のまま	2,100		洗面ユニット、洗濯パン撤去のうえ新設(別図参照) 手すり：TS113A6撤去のうえ新設：TS134GY6S	
浴 室	改修前	ユニットバス (3DK用 1216タイプ、1K 1014タイプ) 本体取付工事は本工事、機器接続は設備工事 手すり：TS113A6(12ヶ所)含む(本工事) (参考：NP-1216RBL、NP-1014RBL)									換気扇(設備)	
	改修後	UB1216、UB1014撤去のうえ 3DK：UB1216、1DK：UB1014新設(明細は別図参照)、換気は既存の外に接続									既存換気ダクトに新設換気扇を接続	
W C	改修前	(3DK)長尺塩ビシート2.0t張り コンパネ12t下地 (1K)複合フロアー12t張り ネダフォーム95t下地	ソフト巾木 H=60	ビニールクロス張り 下地：PB12t		同 左	2F～4F 5F～RF	化粧石膏ボード9t張り(ジブトン) 軽量鉄骨天井下地	2,100		換気扇(設備工事)、手すり：TS113A6	
	改修後	既存のまま	既存のまま	既存のまま		同 左	2F～4F 5F～RF	既存のまま	2,100		手すり：TS113A6 現況のまま 既存腰掛便器撤去のうえ新設(機械設備図参照)	
D K	改修前	複合フロアー12t張り 下地：ネダフォーム95t	ソフト巾木 H=60	ビニールクロス張り 下地：PB12t(一部 GL工法) 一部 耐水PB12t(一部 GL工法) 100角タイル		同 左	2F～4F 5F～RF	コンクリート打放し 軽量骨材5t吹付 (梁型)ビニールクロス張り PB12t下地(GL工法)	2,510 (K)2,545 2,400		流し台(RL-120)、ガス台(RLG・60BG) 吊戸棚(T-120RL)、水切り(SUS304L=1820) レンジフードファン(VSF-60 型)	
	改修後	既存のまま	既存のまま	既存のまま		同 左	2F～4F 5F～RF	既存のまま			既存のまま	
和室8帖 (和室7.5帖) 和室6帖	改修前	タタミ敷き55t(インジュレーション) 下地：ネダフォーム40t (一部 縁甲板12t 下地：ネダフォーム95t(和室7.5帖))	木製巾木 H=35	ビニールクロス張り 下地：PB12t(一部 GL工法)		同 左	2F～4F 5F～RF	コンクリート打放し 軽量骨材5t吹付 (梁型)ビニールクロス張り PB12t下地(GL工法) 一部 ビニールクロス張り 下地：PB9t	2,100～2,545 2,400		アルミカーテンレール(S)	
	改修後	既存のまま	既存のまま	既存のまま		同 左	2F～4F 5F～RF	既存のまま	2,100		既存のまま	
洋室6帖	改修前	複合フロアー12t張り 下地：ネダフォーム95t	ソフト巾木 H=60	ビニールクロス張り 下地：PB12t(一部 GL工法)		同 左	2F～4F 5F～RF	コンクリート打放し 軽量骨材5t吹付 (梁型)ビニールクロス張り PB12t下地(GL工法) 化粧石膏ボード9t張り(ジブトン) (梁型)ビニールクロス張り PB12t下地(GL工法) 軽量鉄骨天井下地	2,515 2,400		アルミカーテンレール(S)	
	改修後	既存のまま	既存のまま	既存のまま		同 左	2F～4F 5F～RF	既存のまま	2,100		既存のまま	
押 入 (物 入)	改修前	(2F)ラワン合板5.5t T-2 下地：ネダフォーム95t (3F～5F)こらばし床組の上 ラワン合板5.5t T-2	雑巾摺り(刈刈) H=10	押入ボード9t張り 一部 GL工法		同 左	2F～4F 5F～RF	(和室6帖・8帖)コンクリート打放し (和室7.5帖・廊下物入・洋室物入れ)PB9t張り PB9t張り 軽量鉄骨天井下地 (梁型)ビニールクロス張り PB12t下地(GL工法)	2,520～1,825 2,400～1,825		中棚(和室)、天袋(和室6帖のみ)	
	改修後	既存のまま	既存のまま	既存のまま		同 左	2F～4F 5F～RF	既存のまま	既存のまま		既存のまま	
					HEAD	CHIEF	DRAW	TITILE		とうはくハイツ改修(第1期)工事		
									(改修前・改修後)仕上表 工事概要		NO SCALE	
									ARCH		有限会社 一級建築士 第262287号 杉嶋 信次 TEL 0858-52-3599/FAX 0858-52-3599	
									琴浦事務所		NO. A - 13 DRAWING NO 2026.4	



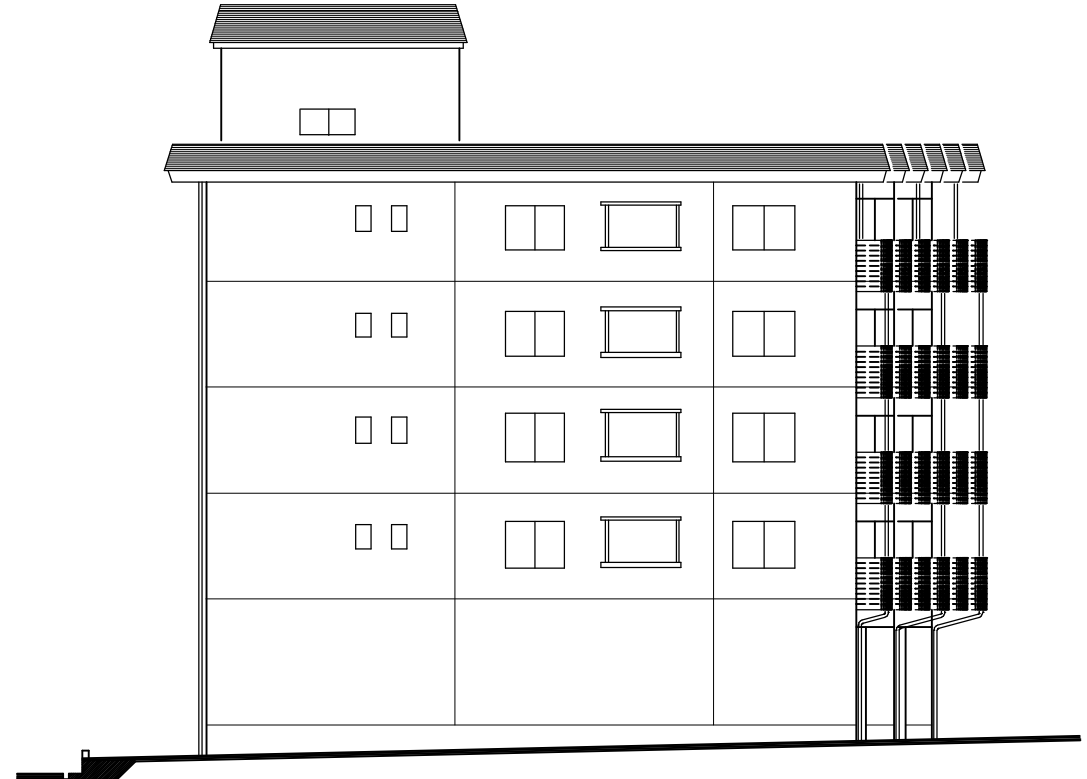
南側立面図 S=1:200



東側立面図 S=1:200

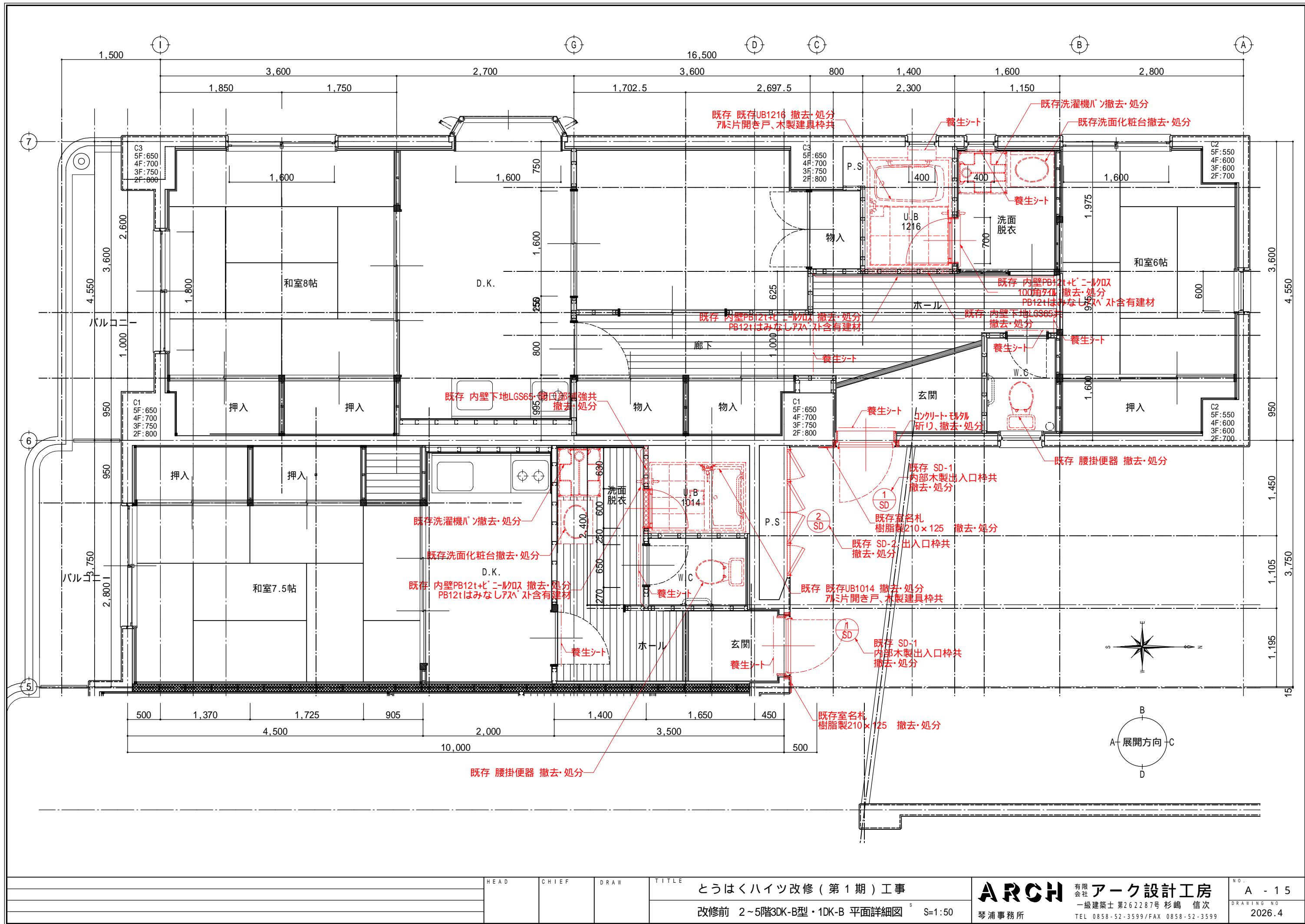


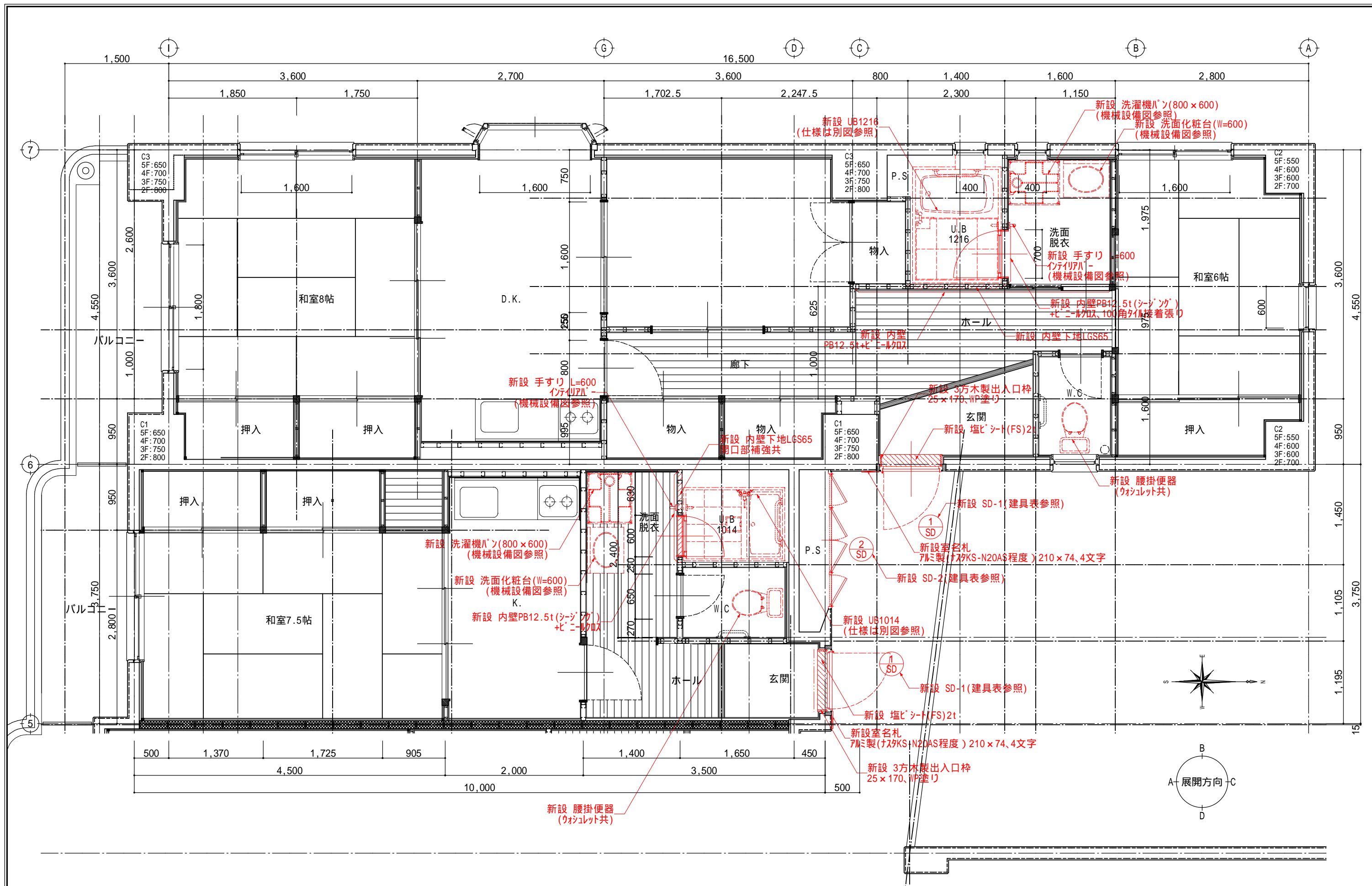
北側立面図 S=1:200



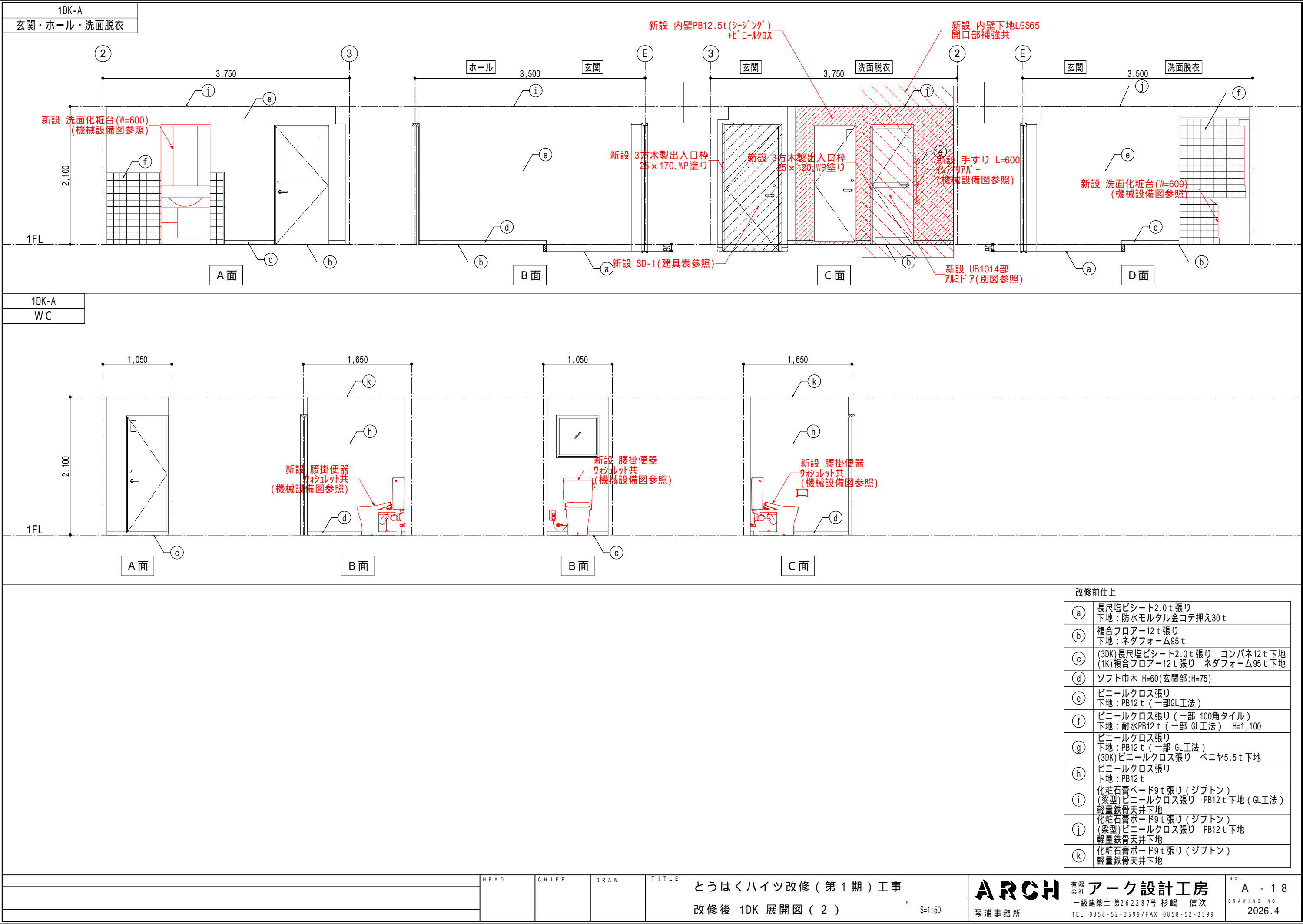
西側立面図 S=1:200

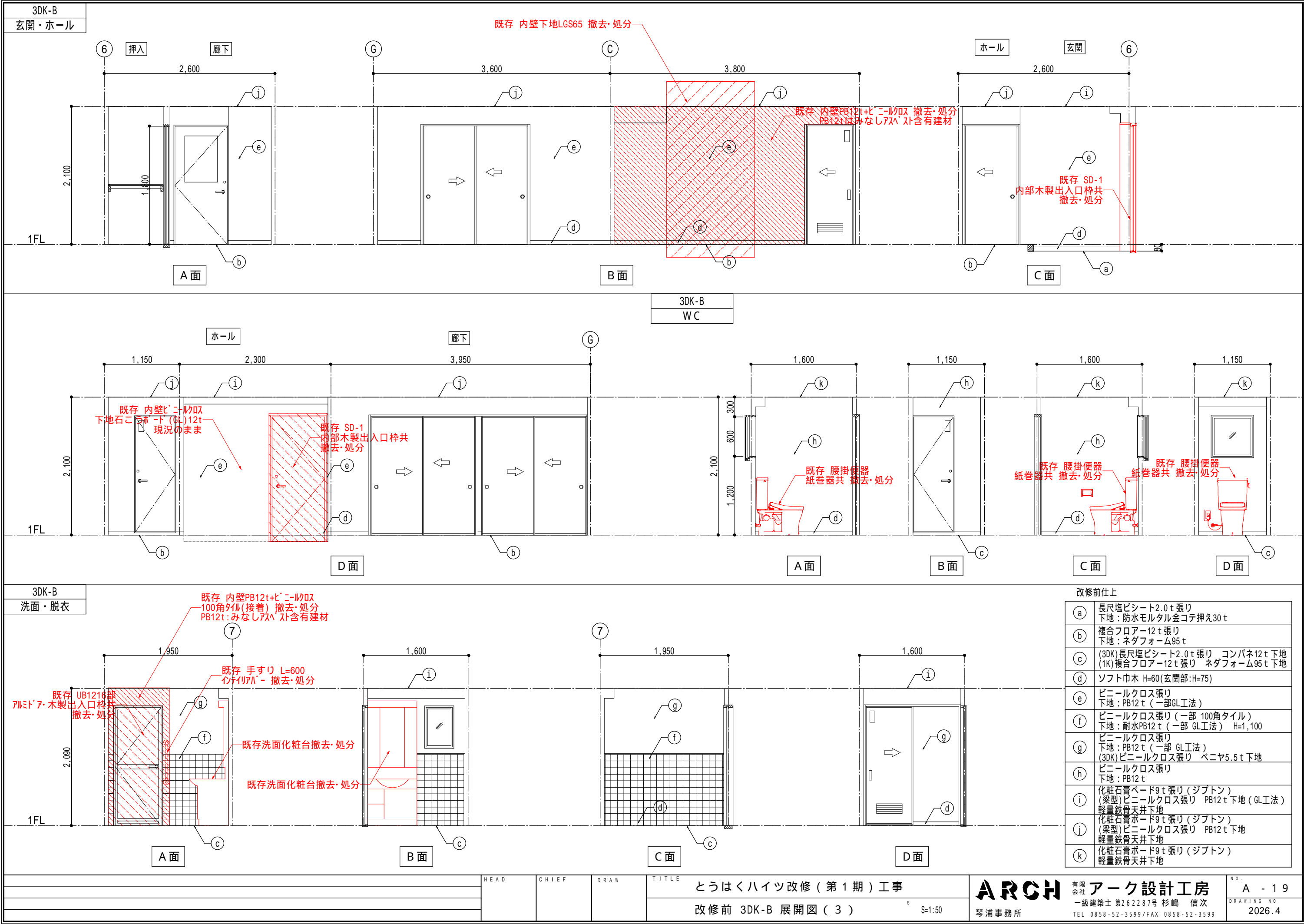
	HEAD	CHIEF	DRAW	TITLE		ARCH 有限会社 アーク設計工房 一級建築士 第262287号 杉嶋 信次 琴浦事務所 TEL 0858-52-3599/FAX 0858-52-3599	NO. A - 14 DRAWING NO. 2026.4
				とうはくハイツ改修（第1期）工事			
				立面図			
				S=1:200			





				とうはくハイツ改修（第１期）工事	ARCH 有限会社 アーク設計工房 一級建築士 第262287号 杉嶋 信次 TEL 0858-52-3599/FAX 0858-52-3599 琴浦事務所	NO. A - 16 DRAWING NO 2026.4
				改修後 2～5階3DK-B型・1DK-B 平面詳細図 S=1:50		





	HEAD
	CHIEF
	DRAW
	TITLE

	とうはくハイツ改修(第1期)工事
	改修前 3DK-B 展開図(3)

	S=1:50
--	--------

ARCH	有限会社 アーク設計工房	NO. A-19
	一級建築士 第262287号 杉嶋 信次	DRAWING NO. 2026.4
	琴浦事務所	TEL 0858-52-3599/FAX 0858-52-3599



廊下



B 面

C 面

D 面

A 面

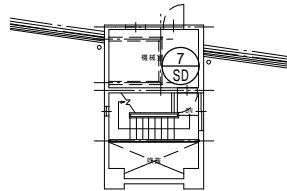
B 面

C 面

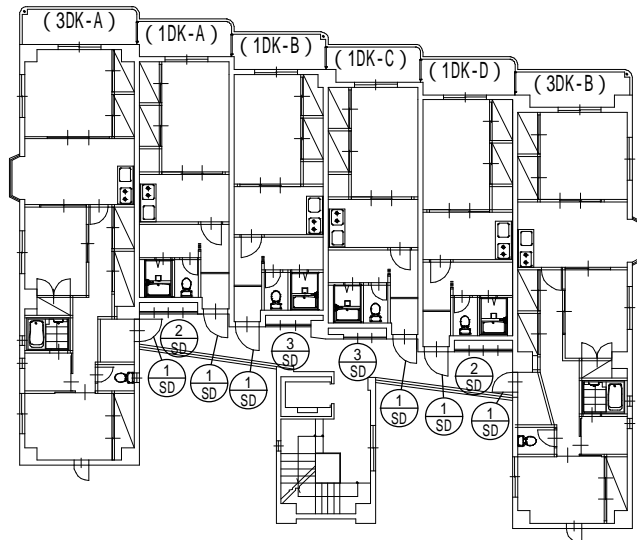
D 面

<div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="text-align: left;"> <p>有限会社 アーク設計工房</p> <p>一級建築士 第262287号 杉嶋 信次</p> <p>TEL 0858-52-3599 / FAX 0858-52-3599</p> </div> <div style="text-align: right; border-left: 1px solid black; padding-left: 10px;"> <p>NO.</p> <p style="font-size: 1.5em;">A - 20</p> <p>DRAWING NO</p> <p style="font-size: 1.5em;">2026.4</p> </div> </div>	
---	--

(改修前) 既設撤去建具表							
記 号	①SD 12ヶ所	②SD 4ヶ所	③SD 4ヶ所	④SD 2ヶ所	⑤SD 5ヶ所	⑥SD 1ヶ所	⑦SD 1ヶ所
姿 図	建具周囲 4方 外壁コンクリート(EL外) W=50 撤去・処分 アスベスト含有 建具周囲 4方 シーリング 撤去・処分 	建具周囲 4方 外壁コンクリート(EL外) W=50 撤去・処分 アスベスト含有 建具周囲 4方 シーリング 撤去・処分 	建具周囲 4方 外壁コンクリート(EL外) W=50 撤去・処分 アスベスト含有 建具周囲 4方 シーリング 撤去・処分 	建具周囲 4方 外壁コンクリート(EL外) W=50 撤去・処分 アスベスト含有 建具周囲 4方 シーリング 撤去・処分 	建具周囲 4方 外壁コンクリート(EL外) W=50 撤去・処分 アスベスト含有 建具周囲 4方 シーリング 撤去・処分 	建具周囲 4方 外壁コンクリート(EL外) W=50 撤去・処分 アスベスト含有 建具周囲 4方 シーリング 撤去・処分 	建具周囲 4方 外壁コンクリート(EL外) W=50 撤去・処分 アスベスト含有 建具周囲 4方 シーリング 撤去・処分
	(特定防火設備)				(防火設備)		
部 屋 名	2階～5階玄関	1階～5階ハ イ ー シャフト	1階～5階ハ イ ー シャフト	1階ホ ッ プ 室・フ ェ イ ン 庫	1階トランクルーム	1階物入	R階キ ー 室
型 式	玄関戸	開き戸	開き戸	両開き戸	片開き戸	片開き戸	片開き戸
材 質	スチール0.8t x 2	スチール1.0t	スチール1.0t	スチール1.6t (両面フラッシュ)	スチール1.6t (両面フラッシュ)	スチール1.0t (両面フラッシュ)	スチール0.8t (両面フラッシュ)
見 込	86	50	50	70	80	80	80
ガラス・塗装	OP塗 (溶融亜鉛メッキ鋼板下地)	OP塗 (溶融亜鉛メッキ鋼板下地)	OP塗 (溶融亜鉛メッキ鋼板下地)	OP塗 (溶融亜鉛メッキ鋼板下地)	OP塗 (溶融亜鉛メッキ鋼板下地)	OP塗 (溶融亜鉛メッキ鋼板下地)	OP塗 (溶融亜鉛メッキ鋼板下地)
金 物	附属金物一式	附属金物一式	附属金物一式	附属金物一式	附属金物一式	附属金物一式	附属金物一式
備 考	ドアクロザー、型 (BL) アングル15x20、BL仕様スチールフラッシュ	BL仕様 (キックPS-2C)	BL仕様 (キックPS-2C)	シリンドー錠、アームストップ - フラス落し、BL仕様スチールフラッシュ	シリンドー錠、アームストップ - フラス落し、BL仕様スチールフラッシュ	シリンドー錠、ドアクロザー - BL仕様スチールフラッシュ	シリンドー錠、ドアクロザー - BL仕様スチールフラッシュ

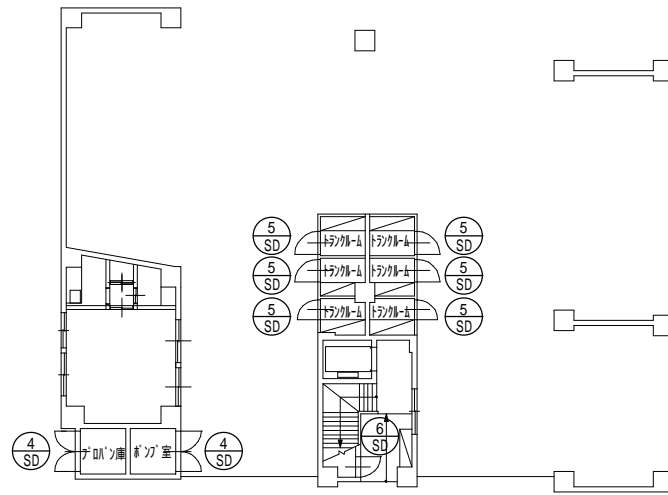
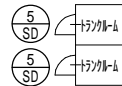


(改修前) R階建具配置図 1/300



(改修前) 2階～5階建具配置図 1/300

(改修後) 新設建具表							
記 号	①SD 12ヶ所	②SD 4ヶ所	③SD 4ヶ所	④SD 2ヶ所	⑤SD 5ヶ所	⑥SD 1ヶ所	⑦SD 1ヶ所
姿 図	建具周囲 4方 W=50 EL外詰め補修 外壁防水形複層塗材E 4方 シーリング 10x15 MS-2 	建具周囲 4方 W=50 EL外詰め補修 外壁防水形複層塗材E 4方 シーリング 10x15 MS-2 	建具周囲 4方 W=50 EL外詰め補修 外壁防水形複層塗材E 4方 シーリング 10x15 MS-2 	建具周囲 4方 W=50 EL外詰め補修 外壁可とう形複層塗材CE 	建具周囲 3方 W=50 EL外詰め補修 下部窓ずりEL外 外壁防水形複層塗材E 4方 シーリング 10x15 MS-2 	建具周囲 4方 W=50 EL外詰め補修 外壁防水形複層塗材E 4方 シーリング 10x15 MS-2 	建具周囲 4方 W=50 EL外詰め補修 外壁防水形複層塗材E 4方 シーリング 10x15 MS-2
	(特定防火設備)			(防火設備)			
部 屋 名	2階～5階玄関	2階～5階ハ イ ー シャフト	2階～5階ハ イ ー シャフト	1階ホ ッ プ 室・フ ェ イ ン 庫	1階トランクルーム	1階物入	R階キ ー 室
型 式	玄関戸 BL CP仕様	片開き戸+両開き戸	片開き戸+両開き戸	両開き戸	片開き戸	片開き戸	片開き戸
材 質	表面材 ホ スチールフラッシュ 室内側 SHアイレー	溶融亜鉛メッキ鋼板1.0t	溶融亜鉛メッキ鋼板1.0t	溶融亜鉛メッキ鋼板1.6t	溶融亜鉛メッキ鋼板1.6t	溶融亜鉛メッキ鋼板1.0t	溶融亜鉛メッキ鋼板1.0t
見 込	枠86 扉40	枠50 扉40 (片面フラッシュ)	枠50 扉40 (片面フラッシュ)	枠80 扉40 (両面フラッシュ)	枠80 扉40 (両面フラッシュ)	枠80 扉40 (両面フラッシュ)	枠80 扉40 (両面フラッシュ)
ガラス・塗装	建具枠 DP(2級)塗り、防錆塗装 ドアクロザー(ストップ 無) レバーハンドル錠	建具 DP(2級)塗り、防錆塗装 丸型ハンドル、ワイヤーストップ -	建具 DP(2級)塗り、防錆塗装 丸型ハンドル、ワイヤーストップ -	建具 DP(2級)塗り、防錆塗装 アームストップ -、ケースハンドル錠	建具 DP(2級)塗り、防錆塗装 ドアクロザー(ストップ 付) ケースハンドル錠	建具 DP(2級)塗り、防錆塗装 ドアクロザー(ストップ 付) ケースハンドル錠	建具 DP(2級)塗り、防錆塗装 ドアクロザー(ストップ 付) ケースハンドル錠
備 考	ドアカード、ドアアイ(クロムメッキ) 扉芯材 水酸化アルミコア 窓摺り(エアタイト型)SUS1.5t 丁番(H.L.)、木額アングル	丁番(H.L.) 窓摺り(チャンセル型)SUS1.5t	丁番(H.L.) 窓摺り(チャンセル型)SUS1.5t	丁番、戸当り 窓摺り(チャンセル型)SUS1.5t	丁番、戸当り 窓摺り(チャンセル型)SUS1.5t	丁番、戸当り 窓摺り(チャンセル型)SUS1.5t	丁番、戸当り 窓摺り(チャンセル型)SUS1.5t



(改修前) 1階建具配置図 1/300

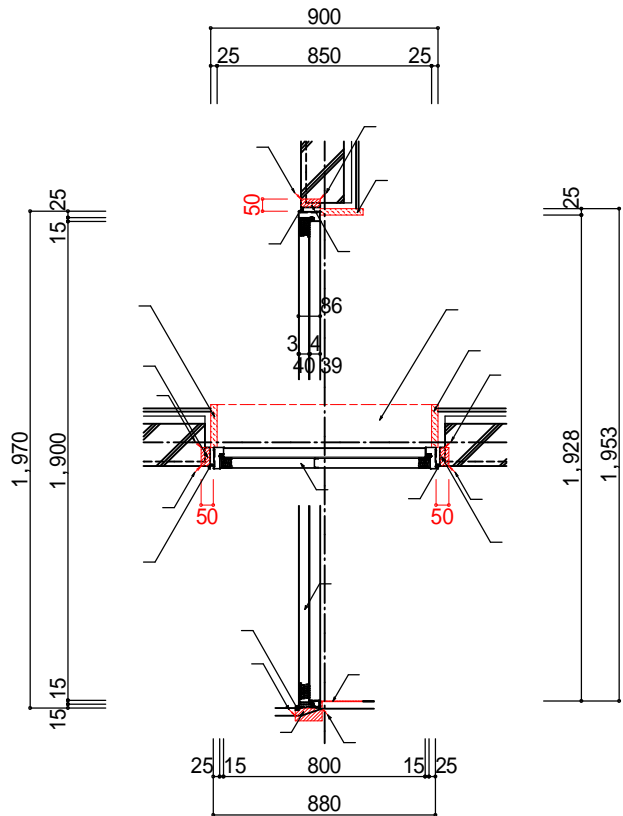
既存撤去部分工事内容 凡例

木製出入口枠 25×170 撤去・処分
既存壁：コンクリート カッター切断(アスベスト含有)
既存壁：コンクリート カッター切断

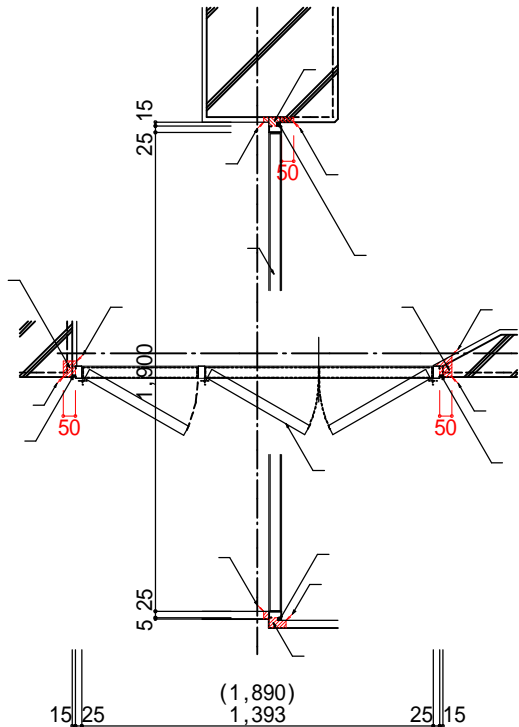
既存シーリング 撤去・処分
建具周囲ハツリ RC壁(アスベスト含有) 撤去・処分
建具周囲ハツリ RC壁 撤去・処分

既存建具(枠共) 撤去・処分
既存床：塩ビシート2t、幅170 撤去・処分
既存壁：珪藻土 カッター切断

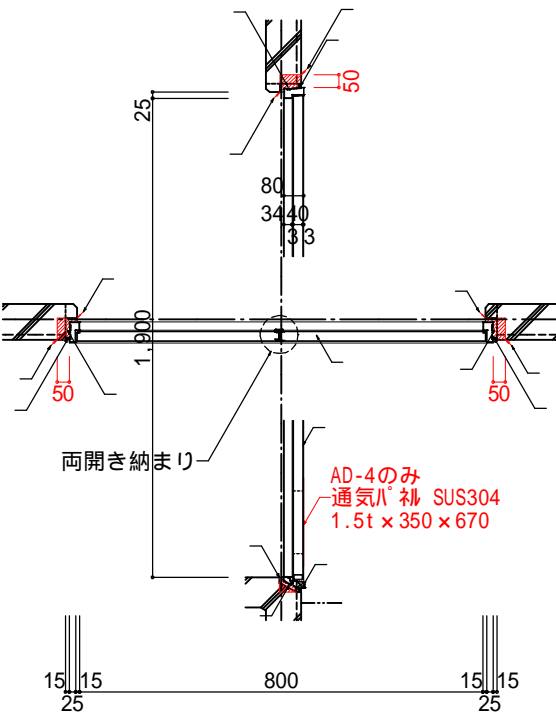
既存沓ずり：珪藻土 撤去・処分



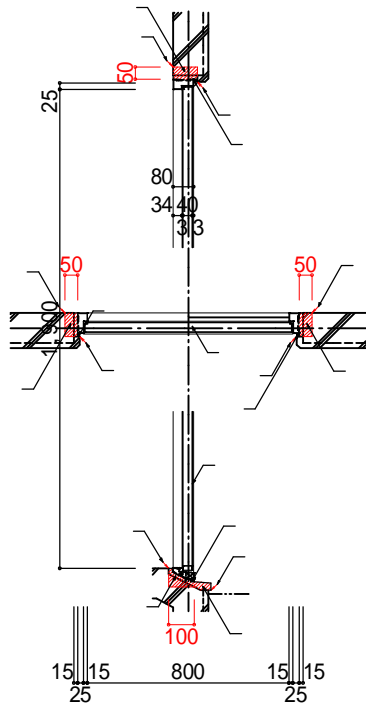
改修前 SD-1 詳細図 S=1:30



改修前 SD-2、SD-3 詳細図 S=1:30



改修前 SD-6、7 詳細図 S=1:30



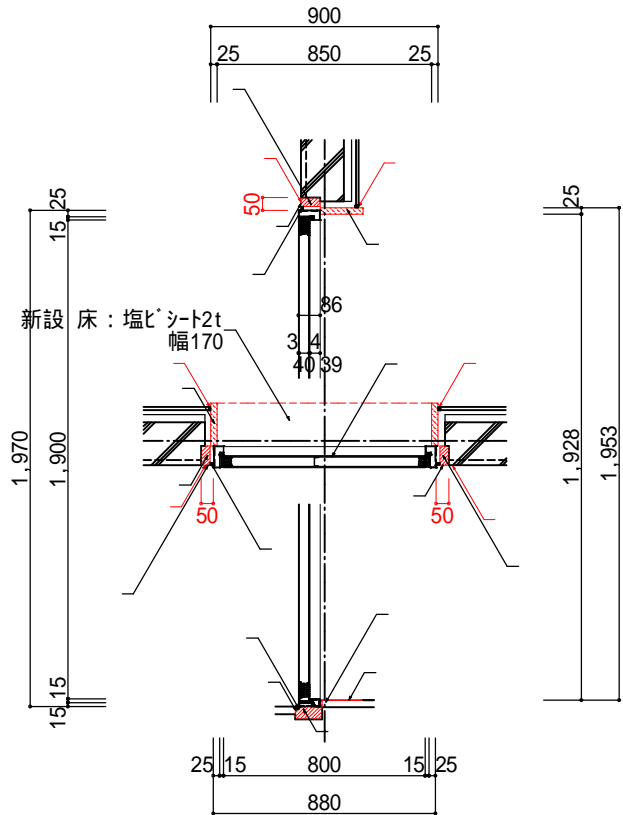
改修前 SD-5 詳細図 S=1:30

改修部分工事内容 凡例

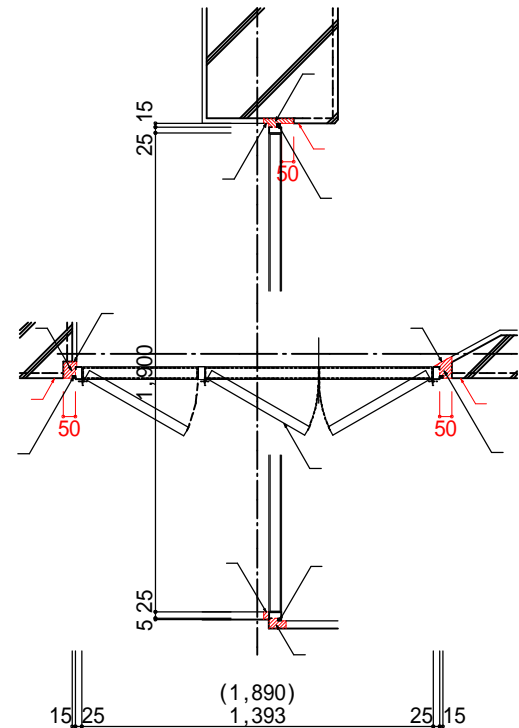
新設 木製出入口枠 25×170 +WP塗り
新設 開口部周囲内外珪藻土塗り(防水剤入)
新設 開口部周囲珪藻土口詰め(防水剤入)

新設 建具周囲シーリング MS-2 10×15
新設 外壁吹付材 防水形複層塗材E
沓ずり珪藻土塗り 防水剤入

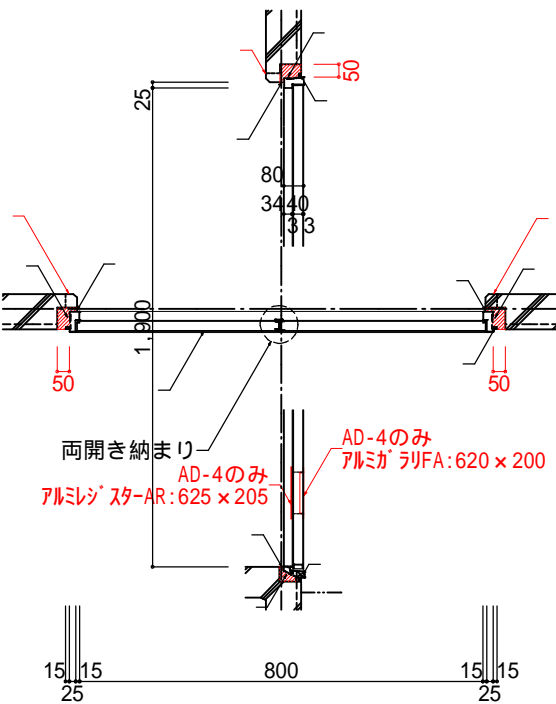
新設 鋼製建具
新設 床：塩ビシート(FS)2t 幅170
新設 木製出入口枠周囲シーリング MS-2 10×15



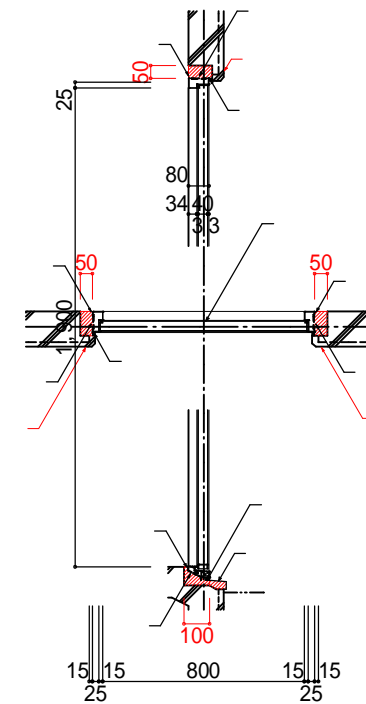
改修後 SD-1 詳細図 S=1:30



改修後 SD-2、SD-3 詳細図 S=1:30



改修後 SD-6、7 詳細図 S=1:30



改修後 SD-5 詳細図 S=1:30

HEAD

CHIEF

DRAW

TITLE

とうはくハイツ改修工事

(改修前・改修後) 建具詳細図

S=1:30

ARCH

有限会社 アーク設計工房
一級建築士 第262287号 杉嶋 信次
TEL 0858-52-3599/FAX 0858-52-3599

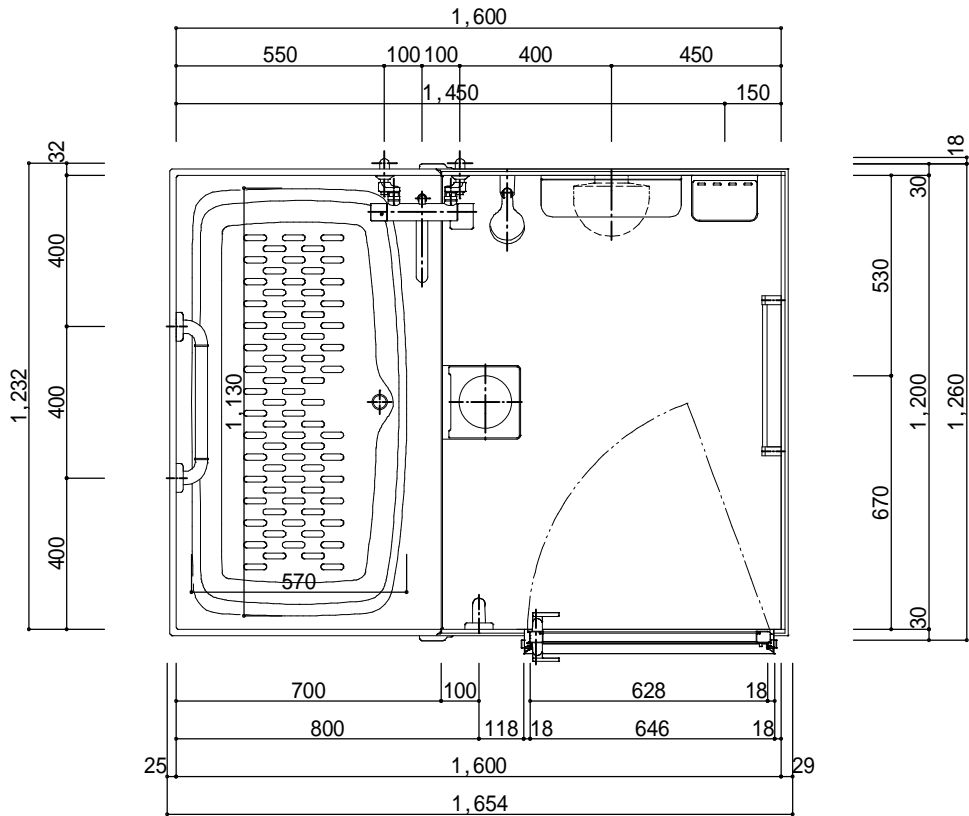
NO.

A - 2 3

DRAWING NO

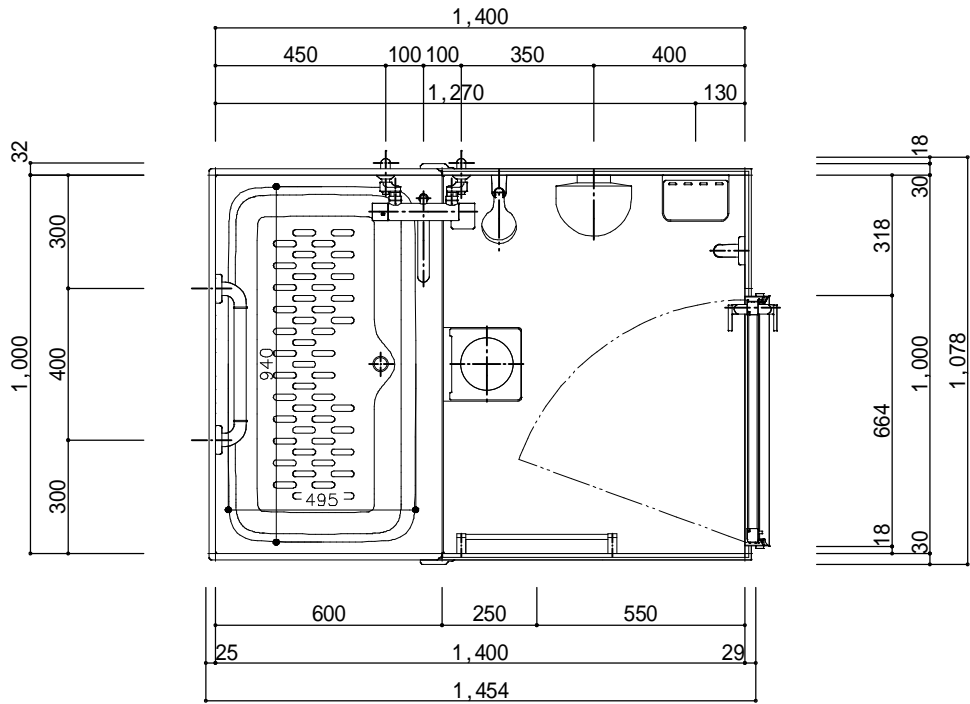
2026.4

ユニットバス1216仕様 参考品番：WSV1216JT		コロガシ は、基本仕様からの変更箇所		
名 称	仕様・寸法	色・柄	特記事項	備 考
天井パネル	化粧鋼板複合パネル（抗菌防カビ仕様・モールド） 点検口 450（線り点検口・落下防止用紐付・石膏ボード2枚貼り）	ホワイト		
壁パネル	HQパネル	ベースホワイト		HDP7L
アクセントパネル	HQパネル	ブリエダー・クグレー		EGKJ4
床パネル	FRP カタリ床（単色）	ライトグレー		CFF02
ドア枠	アルミアルマイト処理	ホワイト	（付特用取付ネジ18支給、 ネジ取付および付特別途）	HDP7L
ドアパネル	開き戸（スッキリドア）換気口開閉式 W=700（有効開口幅 604mm）H=2000 面材：型板スチレン板	ホワイト		HDP7L
ドアロック	ブッシュプルハンドル	ホワイト		HDP7L
ドアストッパー	コンシールドストッパー			HDP7L
浴槽	FRPバス ゴム栓	ホワイト エブロン：ホワイト		
ふるふた	シャッター式ふるふた	ペールホワイト		
アクセントカウンター	ABS樹脂製	ホワイト		
浴槽水栓	TBV03438J型 壁付サーモスタットシャワー・金具 （スパウトL=170）			
シャワーヘッド	コンフォートウェーブシャワー ホース：L=1600	ヘッド：ホワイト ホース：シルバー		SRW16
シャワーハンガー	TH556F6型	ホワイト		
照明	半球形照明（LEDランプ） 消費電力9W以下 60W相当 電球色 VVVF1.6 x2C L=2.0m付		（以降接続別途）	
換気扇	AC100V 消費電力：10/12W（50/60HZ） カバー（抗菌・防カビ仕様）		（同載／換気開口無し）	IKJC5
給水エルボ （浴槽用）	青銅銅物製 接続口 Rc1/2		（以降接続別途）	
給湯エルボ （浴槽用）	青銅銅物製 接続口 Rc1/2		（以降接続別途）	
排水トラップ	ABS樹脂製 封水深50mm 接続口 VP50A受口 取っ手付ヘアキャッチャー 浴槽側逆流防止機構付		（以降接続別途）	
タオル掛け	ステンレスパイプ 13 L=400	座：ホワイト		
手すり（浴槽側短辺）	インテリアバー 32 I型 L=400	ハーベストグレー		KNR4G
手すり（ドア横）	インテリアバー 32 I型 L=600	ハーベストグレー		KAR6G
収納棚	収納棚 W175 樹脂製 2個	ホワイト		
鏡	耐水鏡 ツメ式 四角ミラー W303xH455			
窓枠	フリーサイズ窓枠 最大内寸 D200XW1750X910 （シリコン同梱）	窓枠：ホワイト シリコン：ホワイト	（同載）	VML5W



* 設置に際しては、周囲に3mm以上のクリアランスを確保して下さい。

ユニットバス1014仕様 参考品番：WSV1014JS		コロガシ は、基本仕様からの変更箇所		
名 称	仕様・寸法	色・柄	特記事項	備 考
天井パネル	化粧鋼板複合パネル（抗菌防カビ仕様・モールド） 点検口 450（線り点検口・落下防止用紐付・石膏ボード2枚貼り）	ホワイト		
壁パネル	HQパネル	ベースホワイト		HDP7L
アクセントパネル	HQパネル	ブリエダー・クグレー		EGKJ4
床パネル	FRP カタリ床（単色）	ライトグレー		CFF02
ドア枠	アルミアルマイト処理	ホワイト	（付特用取付ネジ18支給、 ネジ取付および付特別途）	HDP7L
ドアパネル	開き戸（スッキリドア）換気口開閉式 W=700（有効開口幅 604mm）H=2000 面材：型板スチレン板	ホワイト		HDP7L
ドアロック	ブッシュプルハンドル	ホワイト		HDP7L
ドアストッパー	コンシールドストッパー			HDP7L
浴槽	FRPバス ゴム栓	ホワイト エブロン：ホワイト		
ふるふた	シャッター式ふるふた	ペールホワイト		
浴槽水栓	TBV03438J型 壁付サーモスタットシャワー・金具 （スパウトL=170）			
シャワーヘッド	コンフォートウェーブシャワー ホース：L=1600	ヘッド：ホワイト ホース：シルバー		SRW16
シャワーハンガー	TH556F6型	ホワイト		
照明	半球形照明（LEDランプ） 消費電力9W以下 60W相当 電球色 VVVF1.6 x2C L=2.0m付		（以降接続別途）	
換気扇	AC100V 消費電力：10/12W（50/60HZ） カバー（抗菌・防カビ仕様）		（同載／換気開口無し）	IKJC5
給水エルボ （浴槽用）	青銅銅物製 接続口 Rc1/2		（以降接続別途）	
給湯エルボ （浴槽用）	青銅銅物製 接続口 Rc1/2		（以降接続別途）	
排水トラップ	ABS樹脂製 封水深50mm 接続口 VP50A受口 取っ手付ヘアキャッチャー 浴槽側逆流防止機構付		（以降接続別途）	
タオル掛け	ステンレスパイプ 13 L=400	座：ホワイト		HDP7L
手すり（浴槽側短辺）	インテリアバー 32 I型 L=400	ハーベストグレー		KNR4G
手すり（ドア横）	インテリアバー 32 I型 L=600	ハーベストグレー		KAR6G
収納棚	収納棚 W175 樹脂製 2個	ホワイト		ESE2L



* 設置に際しては、周囲に3mm以上のクリアランスを確保して下さい。

HEAD

CHIEF

DRAW

TITLE

とうはくハイツ改修工事

ユニットバス 仕様書・詳細図

NO SCALE

ARCH

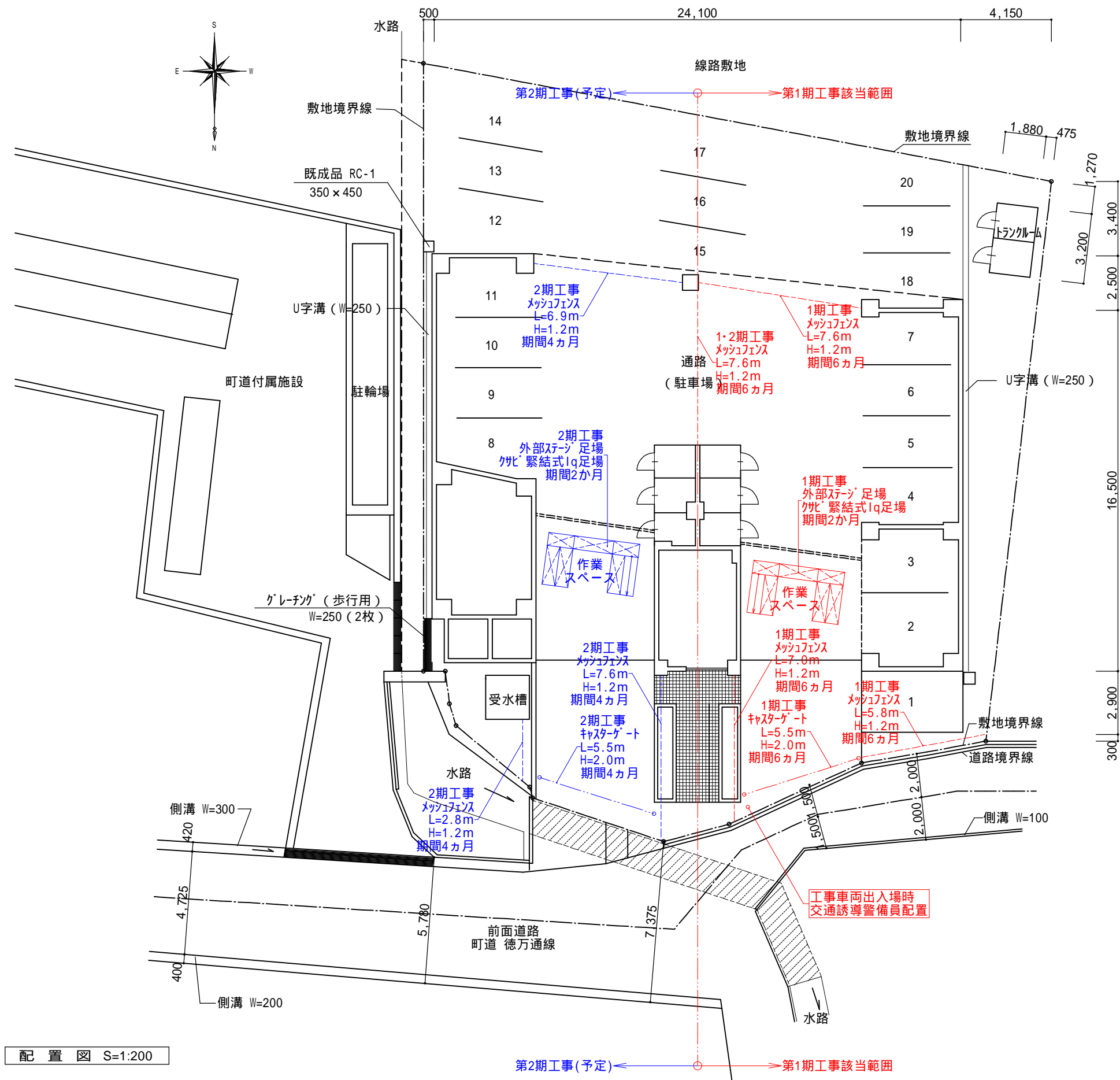
有限会社 アーク設計工房
一級建築士 第262287号 杉嶋 信次
TEL 0858-52-3599/FAX 0858-52-3599

NO.

A - 2 4

DRAWING NO

2026.4



配置図 S=1:200

				HEAD	CHIEF	DRAW	TITLE	ARCH 有限会社 アーク設計工房		NO.
							とうはくハイツ改修工事	一級建築士 第262287号 杉嶋 信次		A - 25
							仮設図 1	琴浦事務所		DRAWING NO.
							S=1:200	TEL 0858-52-3599/FAX 0858-52-3599		2026.4

15工 事 用 仮 設 物

16土 工 事

17電 線 類

18電 線 本 数 ・ 管 路 等

19屋 外 露 出 配 管 の 仕 上 げ

20露 出 配 管 の 塗 装 (付 属 品 含 む)

21波 付 硬 質 合 成 樹 脂 管 (FEP)

22フ ラ ッ シ ュ プ レ - ト の 材 質

23カ パ ー プ レ ー ト の 表 示

24プ ル ボ ッ ク ス の 塗 装

25耐 震 施 工

構内につくることが できる ●できない

埋 め 戻 し 土 根 切 土 中 の 良 質 土 ● 山 砂 の 類 () ● 真 砂 土 ()

建設発生土の処理 ● 構外に搬出し適切に処理 構内敷きならし ● 構内の指示する場所に堆積

本工事で環境配慮の観点から、原則としてE Mケーブルを使用するものとする。

E M電線類で規格等の定めのないものはハロゲン及び鉛を含まない材料で構成されたものとする。

通信ケーブルでJ C S規格にない対数のケーブルはJ C S規格に準じたものとする。

盤内配線はE M電線を使用する。ただし、製造者標準品と特記したものは除く。

ハーネスジョイントボックス用O Aタイプのケーブルはハロゲン及び鉛を含まない材料とする。

分電盤、制御盤、端子盤などの2次側以降の配線経路、電線太さ、電線本数、管径などは監督職員の承諾を受けて変更してもさつつかない。

屋外露出配管（厚鋼電線管）で塗装を行わない場合は、溶融亜鉛めっき仕上げ[めっき付着量 3 0 0 g / m²以上] とする。

塗装する部分 ●屋上 ●屋側 ●屋外 ●廊下 ●機械室 ●居室 () ●

波付硬質合成樹脂管 (F E P) を使用する場合は不燃又は難燃性とする。

● 金属製 (ステンレス、新金属も含む) ● 樹脂製

シール等を貼付け、用途を表示する。

ステンレス製プルボックスの塗装 無 (素地仕上) ●有 (指定色仕上)

設備機器の固定は、次に示す設計用地震力に耐える方法とする。ただし、重量1 k N以下の一般機器について、製造者の指定する固定方法を採用する場合は、この限りではない。

1) 機器の据付け及び取付け

設計用水平地震力は、機器重量[k N] に、地域係数と次に示す設計用標準水平震度を乗じたものとする。

設計用標準水平震度

		● 特定の施設		● 一般の施設	
設 置 場 所	機 器 種 別	重要機器	一般機器	重要機器	一般機器
上 層 階 屋 上 及 び 塔 屋	機 器	2 . 0	1 . 5	1 . 0	1 . 0
	防振支持の機器		2 . 0	1 . 5	
	水 槽 類		1 . 5	1 . 0	
中 間 階	機 器	1 . 5	1 . 0	0 . 6	0 . 6
	防振支持の機器		1 . 5	1 . 0	
	水 槽 類		1 . 0	0 . 6	
地 下 及 び 1 階	機 器	1 . 0	0 . 6	0 . 4	0 . 4
	防振支持の機器		1 . 0	0 . 6	
	水 槽 類		1 . 5	0 . 6	

上層階の定義 2 ～ 6 階建：最上階、7 ～ 9 階建：上層 2 階、10 ～ 12 階建：上層 3 階、13 階以上：上層 4 階
中間階の定義 地階、1 階を除く各階で上層階に該当しないもの
水槽類には燃料小出槽を含む

重要機器 (● 配電盤 ● 非常用発電装置 ● 交換装置 ● 直流電源装置 ● U P S 装置 ● 火災報知受信機 ● 中央監視制御装置 ● 通信総合盤 ●)

2) 設計用鉛直地震力は設計用水平地震力の 1 / 2 とし、水平地震力と同時に働くものとする。

3) 設備機器の耐震支持及びアンカーボルトの許容耐力と選定については、「建築設備耐震設計・施工指針2014年版」((一財) 日本建築センター) を参考にする。

接地極の材料は次による。

接地の種類	記 号	接地抵抗値	接 地 極
● 共 同 接 地	E _A E _D	1 0 以下	E B × 3 連 - 2 組
● 共 同 接 地	E _A E _C E _D	1 0 以下	E B × 3 連 - 2 組
● A 種	E _A	1 0 以下	E B × 3 連 - 2 組
● B 種	E _B	以下	E B × 2 連 - 2 組
● C 種	E _C	1 0 以下	E B × 3 連 - 2 組
● D 種	E _D	1 0 0 以下	E B × 1
● 高 圧 避 雷 器	E _{LH}	1 0 以下	E B × 3 連 - 2 組
● 交 換 機 用	E _t	以下	E B × 3 連 - 1 組
● 通 信 用	E _{A t}	1 0 以下	E B × 3 連 - 2 組
● 通 信 用	E _{D t} 及び E _{D a}	1 0 0 以下	E B × 1
● 電話引込口の保安器用	E _{L t}	1 0 0 以下	E B × 1
● 測 定 用	E _o	-	E B × 1

(連結の場合、E B は D = 1 4 L = 1 5 0 0 または W = 4 0 L = 1 2 0 0 とする)
(E_o、E_{o t}、E_{o a}、E_{L t}、E_o の場合、E B は D = 1 0 L = 1 0 0 0 または W = 3 0 L = 9 0 0 以上とする)
(その他単独の場合、E B は D = 1 4 L = 1 5 0 0 または W = 4 0 L = 1 2 0 0 とする)

ステンレス製または鋼材に溶融亜鉛メッキを施したものとする。

外気に面する壁、スラブ等で打ちこみとなる位置ボックスは保温、結露防止処理を行う。

公共建築改修工事標準仕様書（建築工學編） 9 章 環境配慮改修工事 1 節 石綿含有建材の除去工事による。

処理を行うアスベスト含有建材の仕様等

建材の内容・箇所	仕 様 等	処理を行う範囲

県有施設の石綿除去等に係る施工業者の登録制度による登録業者を活用するものとする。

官公署その他への手続きは、同仕様書によるほか、労働安全衛生法、大気汚染防止法、廃棄物の処理及び清掃に関する法律、石綿障害予防規則、鳥取県石綿健康被害防止条例等の関係法令に基づいて行う。

● 施工調査 (分析によるアスベスト含有建材の調査) を行う。

分析方法はJ I S A 1 4 8 1 「建材製品中のアスベスト含有率測定方法」による。

● アスベスト粉じん濃度測定を行う。

(測定時期： 測定場所： 測定点：)

● 洗浄設備 (洗眼、うがい の設備) 及び更衣設備等を設ける。

● 作業場の養生として、処理場所をプラスチックシート等で囲い、外部への粉じん飛散を防止する。

対象箇所 ()

一 般 共 通 事 項

26接 地 極

③補 修 な ど
31 は つ り
32 はつり工事における非破壊検査 ●
③あと施工アンカー

34 室内空気中の化学物質の濃度測定
35 火 災 保 険 等

36 鳥取県公共事業環境配慮指針
37 建 築 物 省 エ ネ 法

①照 明 器 具
②一 般 照 明 の 照 度 測 定
③非 常 用 照 明 の 照 度 測 定
4 照 明 制 御 の 照 度 測 定 等

2 1 機 器 へ の 接 続

3 1 大 地 抵 抗 率 の 測 定
2 外 部 雷 保 護 設 備 接 地 シ ス テ ム

1 変 圧 器 移 動 車 輪
2 デ マ ン ド 監 視 装 置
3 盤 内 照 明

5 設 電 力 貯 蔵

6 自 家 発 電 装 置
● ディーゼル発電装置
● ガスエンジン発電装置
● ガスタービン発電装置
● 熱 併 給 発 電 装 置
● 燃料電池発電装置

2 太 陽 光 発 電 装 置

3 風 力 発 電 装 置

7 1 交 換 装 置
2 保 安 器 用 接 地
3 壁 付 電 話 機 と の 接 続
4 回 線 数
5 電 話 機
6 電 話 機 へ の 配 線

8 1 マ ル チ サ イ ン 装 置
2 出 退 表 示 装 置
3 時 刻 表 示 装 置

9 1 プ ロ ジ ェ ク タ

工事の施工に伴い既存部分を汚染又は損傷した場合は、既成にならい補修する。
既存のコンクリート床、壁などの配管貫通部の穴あけは、原則としてダイヤモンドカッターによる。
探査方法 電磁誘導式 ● 放射線透過検査 ●
1) 施工後確認試験 行わない ● 行う
試験方法 引張試験機による引張試験
確認強度 対象機器ごとのアンカーボルト1本に作用する引抜き力以上
試験面所数 1 施工単位に対し1本以上
対象機器 ● 配電盤 ● 発電装置 ● 直流電源装置 ● 太陽光発電装置
実施する。
工事目的物及び工事材料等工事施工途中の事故に伴う損害を補てんするため火災保険等に参加する。
(保険の加入期限は、工事完成引渡しまで [概ね工期 + 21 日] とする。)
対象工事
対象工事

1) L E D の光源色は別図面に指定がある場合を除き下記による。
L E D の光源色 (昼白色 ● 温白色 ● 電球色)
測定結果を監督職員に提出する。(測定箇所等は、監督職員の指示による。)
設置した各部屋2箇所以上 ●
明るさセンサーによる照明制御を行う部屋は照度測定を行い測定表を監督職員に提出する。なお、測定箇所は監督職員の指示による。
照度測定時期 1 0 0 % 点灯時 (夜間 ● 昼間)
調光制御点灯時 (夜間 昼間)

電動機などへの接続は本工事とする。 ● 別途工事

● 工事前手に大地抵抗率を測定し、測定表及び接地極省略略定記録書を監督職員に提出する。
● 構造体利用接地極 ● A型接地極 ● B型接地極

7 5 k V A 以上に取付。
● 本工事 ● 別途工事
前・後に設置する。

停電補償時間 (分)
方式 (● 常時インバータ給電方式 ● ラインインタラクティブ方式 ● 常時商用給電方式)

運転時間 (h) システム連系 (● 高圧連系 ● 高圧受電低圧みなし連系 ● 低圧連系 ● 無)
出力 (k W) 配電盤外箱 (● 有 ● 無)
保安装置 (重故障項目特記 ● 有 ● 無) 外部用端子 (● 要 ● 不要)
減圧水槽及び初期注水槽の材質 (● 鋼板製 ● ステンレス鋼板製)
オイルタンク (● 地下 ● 屋内)
据付：機械設備工事標準図 (● 施工 3 0 、 3 2 (タンク室無し) ● 施工 3 1 、 3 3 (タンク室有り))
燃料小出槽 (%) : 返油ポンプのあるシステムでフロートスイッチの上限フロートは通過形接点とする。
材質 (● 鋼板製 ● ステンレス製)
燃料油等 (● 灯油 ● 軽油 ● 重油 ● 燃料ガス ())
排気系統配管断熱材の厚さ (mm) ばい煙測定口 (● 設ける ● 設けない)
排気ガスに含まれる窒素酸化物 (以下) 運転音 (d B 以下)
系統連系 (● 高圧連系 ● 高圧受電低圧みなし連系 ● 低圧連系 ● 無)
公称最大出力 (k W) 耐風速 (m / s)
パワーコンディショナ (相 線 式 V) 定格容量 (k W)
自立運転機能 (● 有 ● 無)
表示装置 (● 有 ● 無) 方式 (液晶 ●)
系統連系 (● 高圧連系 ● 高圧受電低圧みなし連系 ● 低圧連系 ● 無) 定格出力 (k W)

局線応答方式 (● 局線中継台方式 ● 分散中継台方式 ● ダイアルイン方式 ● ダイレクトインダイヤル方式 ● ダイレクトインライン方式)

停電補償時間 (分)
本工事 ● 別途工事
モジュラージャック ● 電話用プレート
内線 / / 回線 局線 / / 回線 (現用 / 実装 / 容量)
● 一般電話機 台 ● 多機能電話機 台 ● ファクシミリ 台
● デジタルコードレス電話機 台 ● I P 電話機 台
桌上電話機1台につき次のものを見込む。
● ボタン電話機 (● EM-BTIEE 0.4 - 2P ●) (1 5 m ●)
● 内線電話機 (● EM-TIEF 0.65 - 2C ● TIVF 0.65 - 2C) (1 5 m ●)
● 多機能電話機 (● EM-BTIEE 0.4 - 2P ●) (1 5 m ●)
● I P 電話機 (● EM-UTP 0.5 - 4P ●) (1 5 m ●)

イメージスキャナ (● 設ける ● 設けない)
制御装置 (● 壁掛形 ● 埋込形 ● 据置形)
呼出機能 (● 有 ● 無) 方式 (● 発光ダイオード ● 液晶 ●)
観時計 (● 壁掛形 回線 ● ラック形 回線)
太陽電池式屋外時計 (点灯時間 h 点灯保証日数 日)

光出力 (● 形 ● 形 ● 形) 解像度 (● A 形 ● B 形 ● C 形)
コントラスト比 (● X 形 ● Y 形)

10 設 拡 備 備

11 支 誘 接 導

12 火 災 報 知 設 備

13 構 内 配 電 線 路

14 構 内 通 信 線 路

15 テ レ ビ 電 波 受 信 障 害 調 査

⑬ そ の 他

1 増 幅 器

1 音 声 誘 導 装 置

1 自 動 火 災 報 知 設 備
2 自 動 閉 鎖 設 備
3 ガ ス 漏 れ 火 災 警 報 設 備

1 施 工 方 法
2 地 中 箱
3 高 圧 負 荷 開 閉 器
4 高 圧 ケ ー ブ ル の 端 末 部
5 高 圧 ケ ー ブ ル の 屋 外 端 末 処 理
6 標 識 シ ー ト
7 照 明 用 ボ ー ル

1 施 工 方 法
2 地 中 箱
3 標 識 シ ー ト

1 調 査 仕 様
2 テ レ ビ 電 波 受 信 障 害 調 査 時 期
3 受 信 す る 受 信 波 及 び 地 点 数
4 報 告 書 提 出 部 数

形式 (● 卓上形 ● ラック形) 定格出力 (W) 性能 (● H i 形 ● L o 形)
● 増幅器の入出力配線と外部配管 (壁ボックス等) の接続はコネクタによる。

検出方式 (● 磁気方式 ● 無線方式 ● 画像認識方式)

受信機 (● 型 級 回線 (蓄積型) ● 複合形 ● 単独形)
● 防火戸用 (ラッチ式 ● 電磁式)
● 防煙ダンパー用 (電動復帰 ● 手動復帰)
● 防火シャッター用 (別途工事 ● 本工事)
検知器 (● 天井取付形 ● 壁取付形)

埋設深さ G L - 3 0 0 以上、舗装のある場合は路盤下 - 3 0 0 以上とする。
● G L - 6 0 0 以上 (● 車路 ● 高圧配線 ● 幹線 ●)
蓋の記号表示は鋳型流込み (鳥取県又は鳥取県章、及び用途を記入) とし、ハンドホール内のケーブル支持等はマンホールに準じて行う。アスファルト舗装面に使用するハンドホール及び鉄蓋はアスファルト舗装用とする。
● 閉鎖形 (● 軽耐塩形 ● 重耐塩形) ● 地絡継電器付 (方向性 ● 無方向性)
● 避雷器内蔵
別置制御装置までの制御ケーブルを付属する。
高圧ケーブルの両端部にシースの縮み対策 (熱伸縮テープによるシースずれ止め対策等) を行う。
照明用ボールには配線用遮断器 (トリップ機能なし) 又はカットアウトスイッチ (素通しヒューズ) を内蔵する。ただし、ガーデンライトは除く。

埋設深さ G L - 3 0 0 以上、舗装のある場合は路盤下 - 3 0 0 以上とする。
● G L - 6 0 0 以上 (● 車路 ● 高圧配線 ● 幹線 ●)
蓋の記号表示は鋳型流込み (鳥取県又は鳥取県章、及び用途を記入) とし、ハンドホール内のケーブル支持等はマンホールに準じて行う。アスファルト舗装面に使用するハンドホール及び鉄蓋はアスファルト舗装用とする。
● デタ回線 ● 電話 ● C A T V ●

図面に記載されていない事項は、すべて (一社) 日本 C A T V 技術協会の「建造物によるテレビ受信障害調査要領」及び「建造物によるテレビ受信障害調査要領 (地上デジタル放送) 」の最新版により調査を行い、同協会の技術審査を受けるものとする。
事前 ● 中間 事後
中継局 波： 地点
中継局 波： 地点
事前 3 部 ● 中間 部 事後 3 部

① 機 器 取 付 高

機器取付高は下記を標準とする。ただし、天井高 3 m 以上の場合及び機器の使用に支障がある場合は監督職員と協議する。

名 称	測 点	取付高 (mm)
機 器 取 付 高	取引用計器	地上 ~ 窓中心 1,800 ~ 2,000
	引込開閉器	地上 ~ 中心 1,800 ~ 2,200
分電盤・O A 盤・実験盤	床上 ~ 中心	1,500 (上端 1,900 以下)
	スイッチ	" 1,300
	" (多機能トイレ)	" 1,100
	コンセント (一般)	" 300
調 光 機	" (和室)	" 150
	" (台 上)	台 上 ~ 中 心 150
	" (土間)	床 上 ~ 中 心 800 ~ 1,300
	" (車椅子用)	" 900
	ブラケット (一般)	" 2,100 ~ 2,300
	" (踊 場)	" 2,000 ~ 2,500
" (鏡 上)	鏡 上 端 ~ 中 心 150	
壁掛形制御盤	床上 ~ 中心	1,500 (上端 1,900 以下)
	手元開閉器	" 1,500
	操作スイッチ	" 1,300
端 子 盤	床上 ~ 下端	300
	保安器箱	天井下 ~ 上端 200
	壁付アウトレット	床上 ~ 中心 300
	" (和室)	" 150
壁掛形観時計	床上 ~ 中心	1,500 (上端 1,900 以下)
	子時計	" 天井高 × 0.9
音 声 誘 導	壁掛形スピーカ	床上 ~ 中心 天井高 × 0.9
	壁付アッテネータ	" 1,300

名 称	測 点	取付高 (mm)	
機 器 取 付 高	表示盤	床上 ~ 中心 天井高 × 0.9	
	壁付発信器	" 1,300	
	ベル、ブザー、チャイム	" 2,300	
	受付押ボタン (一般)	" 1,300	
	電源箱	床上 ~ 下端 300	
調 光 機			
	外部受付用インターホン (子機)	標準図による	
	壁付インターホン (上記以外)	床上 ~ 中心 1,300	
	壁付押ボタン (多機能トイレ)	" 900	
	壁付押ボタン (多機能トイレ)	" 300	
	床 転 倒 時 用	" 300	
機 器 取 付 高			
	機器収容箱	天井下 ~ 上端 200	
	テレビ端子	床上 ~ 中心 300	
	" (和室)	" 150	
機 器 取 付 高			
			1,500
	受信機・副受信機	床上 ~ 操作部 800 ~ 1,500	
	機器収容箱	" 800 ~ 1,500	
	発信機	床上 ~ 中心 800 ~ 1,500	
機 器 取 付 高	ベル	天井下 ~ 上端 200	
	表示灯	" 200	
機 器 取 付 高			
	ガス漏れ中継器	天井下 ~ 中心 300	
	検知器 (都市ガス)	天井下 ~ 下端 300	
機 器 取 付 高	" (L P ガス)	床上 ~ 上端 300	

2 工事のため送電線及び配電線の近くで作業するときは、事前に中国電力に連絡し、事故防止に努めるものとする。

機 材

工事に使用する機器及び材料は、図面に仕様等が明記してあるものを除き、原則として標準仕様書に規定するもの及び (一社) 公共建築協会発行の「建築材料・設備機材等品質性能評価事業 設備機材等評価名簿」による。

ただし、盤類は上記によるほか以下の製造業者とする。

㈲ 永 井 電 機 工 業 所	㈲ 平 木 電 機 産 業
小 林 制 電 ㈲	㈲ 富 士 オ ー ト モ ー シ ョ ン
勝 英 産 業 ㈲	㈲ 増 岡 電 機 製 作 所

とうはくハイツ改修工事

電気設備特記仕様書 (2)

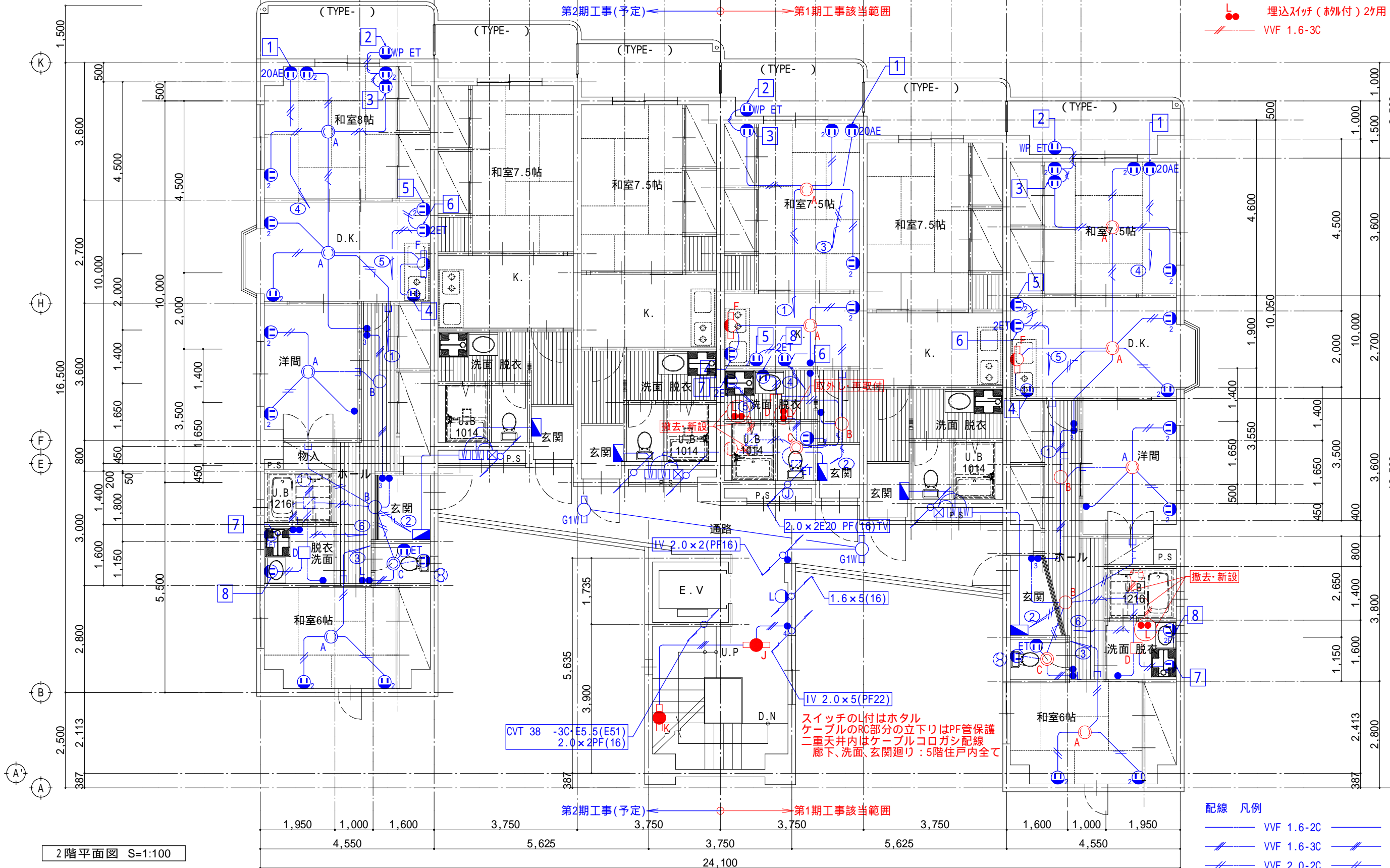
NO SCALE

ARCH 有限会社 アーク設計工房 一級建築士 第262287号 杉嶋 信次 TEL 0858-52-3599/FAX 0858-52-3599 琴浦事務所

NO. E - 2 DRAWING NO. 2026.4

- 1 177用
2 ガス給湯器用
3 防災無線用
4 レゾ'フ'用
5 ガス感知器用
6 冷蔵庫・レゾ'用
7 洗濯機用
8 洗面ユニット用

- UB部：撤去・新設(全住戸共通)
IV 1.6-3C(PF16)
埋込スイッチ(お外付)2ヶ用
WC部：取外し・再取付(TYPE- ~)
埋込スイッチ(お外付)2ヶ用
VVF 1.6-3C



- 配線 凡例
- | | |
|--------------|-------------------|
| — VVF 1.6-2C | — IV 1.6-2C(PF16) |
| — VVF 1.6-3C | — IV 1.6-3C(PF16) |
| — VVF 2.0-2C | — IV 2.0-2C(PF16) |
| — VVF 2.0-3C | — IV 2.0-3C(PF16) |

2階平面図 S=1:100

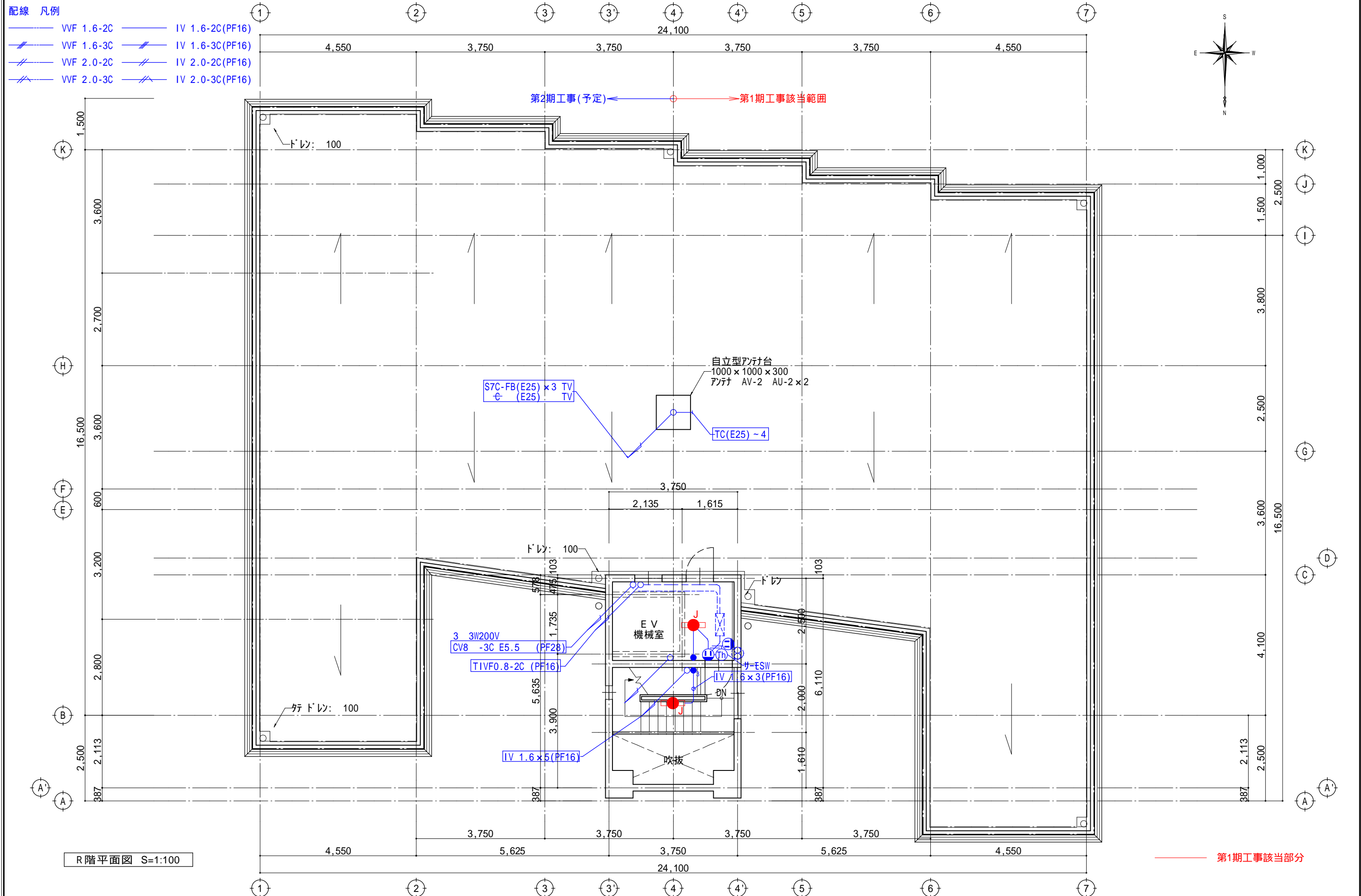
HEAD CHIEF DRAW TITLE

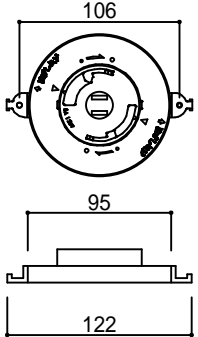
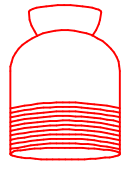
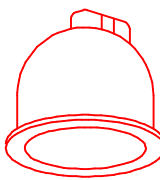
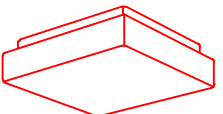



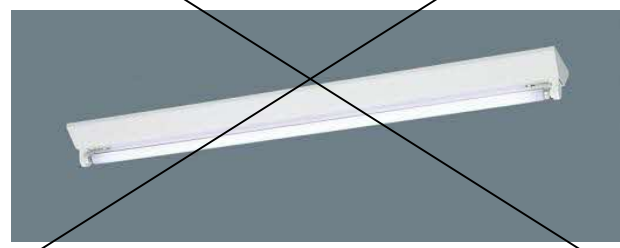
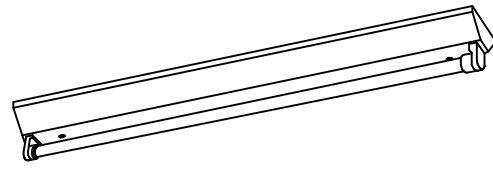

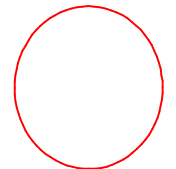


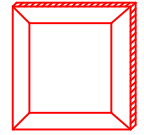
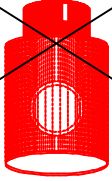
とうはくハイツ改修工事
2～5階照明器具設備図

S=1:100

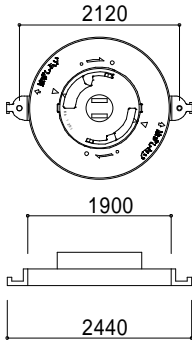

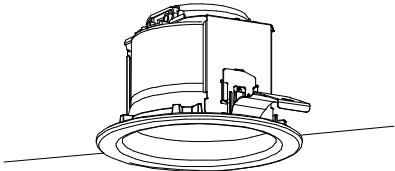
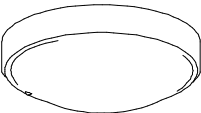
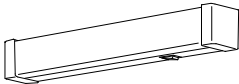

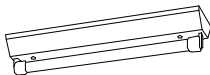
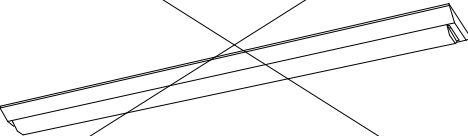
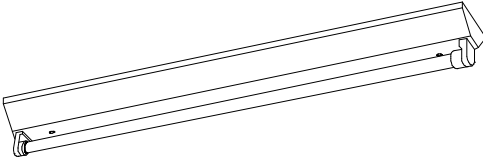

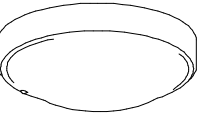
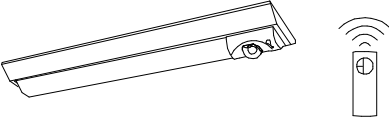
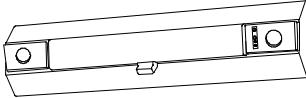
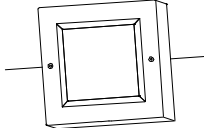

ARCH 有限会社 アーク設計工房
一級建築士 第262287号 杉嶋 信次
琴浦事務所
TEL 0858-52-3599/FAX 0858-52-3599

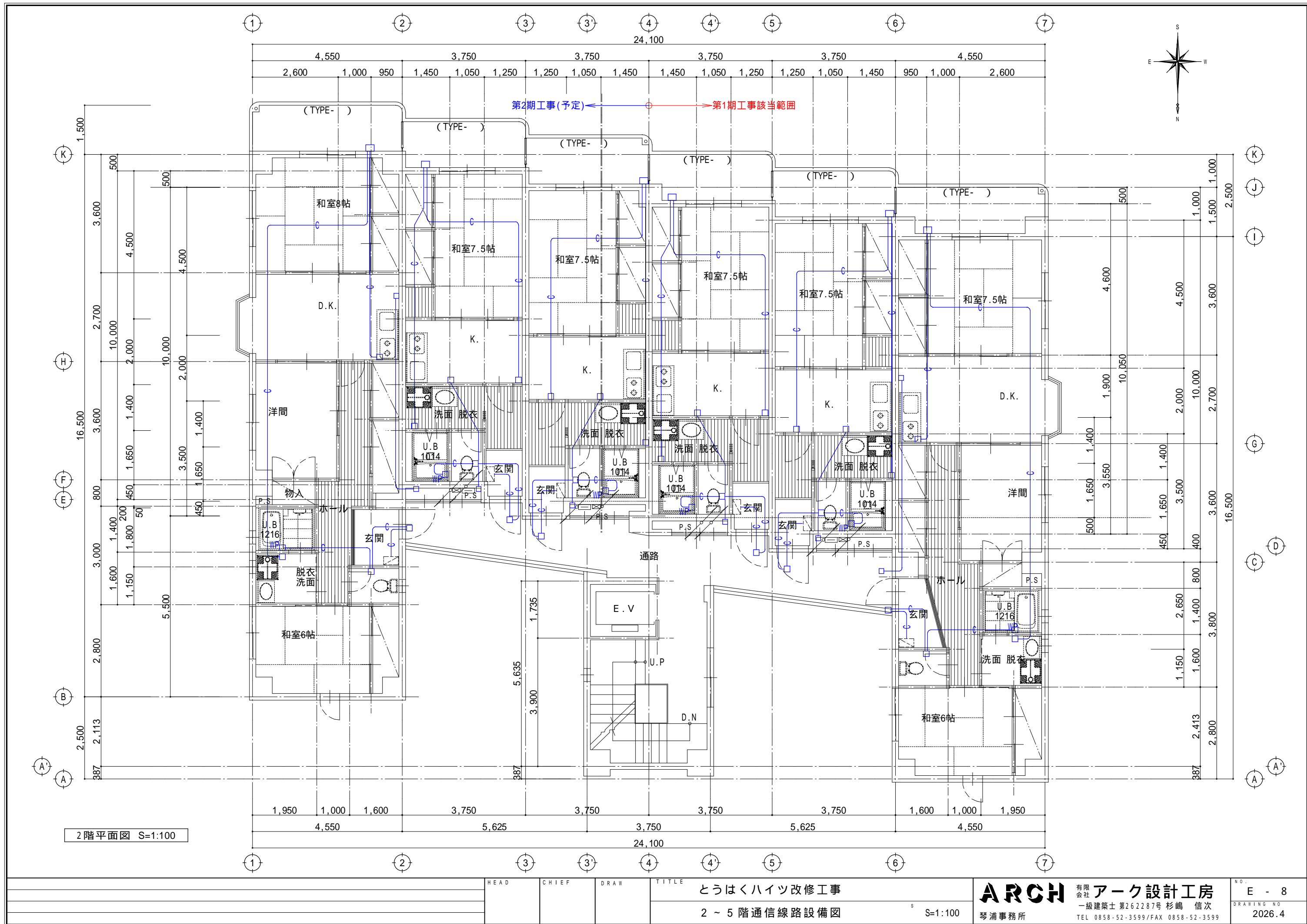
NO. E - 4
DRAWING NO.
2025.10



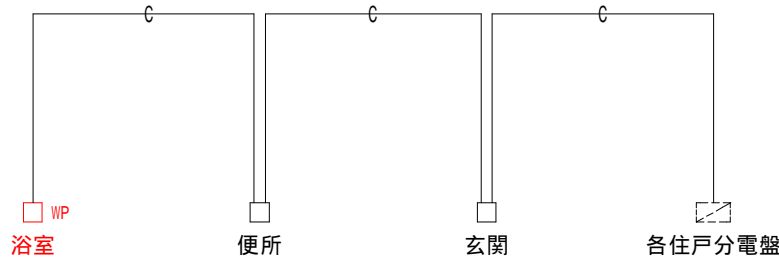
A	引掛埋込ローゼット コンセント付	B	L 60W ガラスグローブ	C	L 50W アクリルパネル	D	F C 30W G L アクリルグローブ
 現況のまま		 撤去・処分 取替：20台		 撤去・処分 取替：12台		1994年製、パナニッヅ証明書により PCBの含有なし  撤去・処分 取替：12台	
F	F L 15W G L	G1	F L 20W G H	G1W	L D L 12×1 NNFW210210 JLE9	G2	F L 40W R H
1994年製、パナニッヅ証明書により PCBの含有なし  撤去・処分 取替：12台		 撤去・処分 取替：1台(集会所)		 現況のまま		 撤去・処分 取替：4台(集会所) = 4台	
G2W	L D L 40×1 LET-41384-LS9	H1W	F L 20W G H			I	F D 18W ガラスグローブ
 現況のまま		 撤去・処分 取替：1台(ポンヅ 室)				 撤去・処分 取替：3台(1階)	
J	F L 20W 蓄電池内蔵型 SK1-FSS4	K	F L 20W 蓄電池内蔵型 SK1-FST12	L	L 5W アクリルパネル ホワイトブロンズ枠	M	L 40W クリア球
非常用照明器具、PCBの含有なし  撤去・処分 取替：7台		非常用照明器具、PCBの含有なし  撤去・処分 取替：4台		 撤去・処分 取替：5台		 撤去・処分 取替：1台(集会所)	

(品番は参考とする。) (点検用リモコン 1台納品とする。)

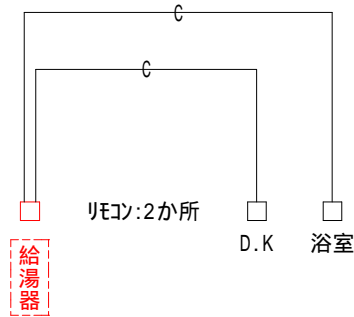
A	引掛埋込ローゼット コンセント付	B	LEDシーリングライト 60形電球1灯器具相当	C	ダウンライト 60形電球1灯器具相当	D	LEDシーリングライト 30形丸形蛍光灯1灯器具相当																																																																																																																				
 <p>現況のまま</p>		パナソニック LGB51654LE1相当品  <p>撤去・処分 取替：20台</p>		パナソニック XAD1100NKCE1相当品  <p>撤去・処分 取替：12台</p>		パナソニック LGW51704WCF1相当品  <p>撤去・処分 取替：12台</p>																																																																																																																					
F	LEDブラケット 15形直管蛍光灯1灯器具相当	G1	直付型20形 W150	G1W	L D L 12×1 NNFW210210 JLE9	G2	直付型40形 W150																																																																																																																				
パナソニック LGB85044LE1相当品  <p>撤去・処分 取替：12台</p>		LSS9-2-15 <p>撤去・処分 取替：1台(集会所)</p>		<p>現況のまま</p>		LSS9-4-48 <p>撤去・処分 取替：4台(集会所) = 4台</p>																																																																																																																					
G2W	L D L 40×1 LET-41384-LS9	H1W	直付型20形 反射笠付型 防湿型・防雨型			I	LEDシーリングライト 20形丸形蛍光灯1灯器具相当																																																																																																																				
 <p>現況のまま</p>		パナソニック XLW213KENZLE9相当品 <p>撤去・処分 取替：1台(ポンプ室)</p>				パナソニック LGW51714WCF1相当品  <p>撤去・処分 取替：3台(1階)</p>																																																																																																																					
J	非常灯 20形 W150 リモコン自己点検機能付	K	一体型階段通路誘導灯兼用型 20形	L	LED足元灯	M	LEDシーリングライト 60形電球1灯器具相当																																																																																																																				
K1-LSS9-2-15  <p>保守率 0.93 撤去・処分 取替：7台</p> <table><tr><td colspan="2">器具取付高さ</td><td>2.1m</td><td>2.4m</td><td>2.6m</td><td>3.0m</td><td>4.0m</td></tr><tr><td rowspan="3">単体配置</td><td>A1</td><td>5.4</td><td>5.7</td><td>5.8</td><td>6.0</td><td>4.7</td></tr><tr><td>B1</td><td>5.5</td><td>5.8</td><td>6.0</td><td>6.2</td><td>5.4</td></tr><tr><td>B'1</td><td>4.9</td><td>5.2</td><td>5.4</td><td>5.4</td><td>4.5</td></tr><tr><td rowspan="2">直線配置</td><td>A2</td><td>12.6</td><td>13.6</td><td>14.1</td><td>15.1</td><td>16.6</td></tr><tr><td>B2</td><td>12.1</td><td>13.1</td><td>13.7</td><td>14.7</td><td>16.1</td></tr><tr><td rowspan="2">四角配置</td><td>A4</td><td>11.2</td><td>11.8</td><td>12.2</td><td>13.0</td><td>14.7</td></tr><tr><td>B4</td><td>10.6</td><td>11.5</td><td>12.1</td><td>13.0</td><td>14.7</td></tr></table>		器具取付高さ		2.1m	2.4m	2.6m	3.0m	4.0m	単体配置	A1	5.4	5.7	5.8	6.0	4.7	B1	5.5	5.8	6.0	6.2	5.4	B'1	4.9	5.2	5.4	5.4	4.5	直線配置	A2	12.6	13.6	14.1	15.1	16.6	B2	12.1	13.1	13.7	14.7	16.1	四角配置	A4	11.2	11.8	12.2	13.0	14.7	B4	10.6	11.5	12.1	13.0	14.7	パナソニック NNCF23115JLE9相当品 階数標示シート4枚共  <p>保守率 0.92 撤去・処分 取替：4台</p> <table><tr><td colspan="2">器具取付高さ</td><td>1.0m</td><td>1.5m</td><td>2.0m</td><td>2.5m</td><td>3.0m</td><td>4.0m</td><td>5.0m</td></tr><tr><td rowspan="3">階段配置</td><td>Y=1.0m</td><td>21x X+</td><td>5.5</td><td>6.5</td><td>7.3</td><td>7.9</td><td>8.4</td><td>9.0</td><td>9.3</td></tr><tr><td></td><td>11x x</td><td>6.9</td><td>8.0</td><td>9.1</td><td>9.9</td><td>10.7</td><td>11.8</td><td>12.4</td></tr><tr><td>Y=1.5m</td><td>21x X+</td><td>5.2</td><td>6.2</td><td>7.1</td><td>7.8</td><td>8.4</td><td>9.0</td><td>9.3</td></tr><tr><td></td><td>11x x</td><td>6.7</td><td>8.0</td><td>8.9</td><td>9.8</td><td>10.6</td><td>11.8</td><td>12.4</td></tr><tr><td rowspan="2"></td><td>Y=2.0m</td><td>21x X+</td><td>4.7</td><td>6.0</td><td>6.9</td><td>7.6</td><td>8.3</td><td>9.0</td><td>9.2</td></tr><tr><td>11x x</td><td>6.4</td><td>7.7</td><td>8.7</td><td>9.5</td><td>10.3</td><td>11.7</td><td>12.4</td></tr></table>		器具取付高さ		1.0m	1.5m	2.0m	2.5m	3.0m	4.0m	5.0m	階段配置	Y=1.0m	21x X+	5.5	6.5	7.3	7.9	8.4	9.0	9.3		11x x	6.9	8.0	9.1	9.9	10.7	11.8	12.4	Y=1.5m	21x X+	5.2	6.2	7.1	7.8	8.4	9.0	9.3		11x x	6.7	8.0	8.9	9.8	10.6	11.8	12.4		Y=2.0m	21x X+	4.7	6.0	6.9	7.6	8.3	9.0	9.2	11x x	6.4	7.7	8.7	9.5	10.3	11.7	12.4	パナソニック YYY86242LE1相当品  <p>撤去・処分 取替：5台</p>		パナソニック LGB51653LE1相当品 <p>撤去・処分 取替：1台(集会所)</p>	
器具取付高さ		2.1m	2.4m	2.6m	3.0m	4.0m																																																																																																																					
単体配置	A1	5.4	5.7	5.8	6.0	4.7																																																																																																																					
	B1	5.5	5.8	6.0	6.2	5.4																																																																																																																					
	B'1	4.9	5.2	5.4	5.4	4.5																																																																																																																					
直線配置	A2	12.6	13.6	14.1	15.1	16.6																																																																																																																					
	B2	12.1	13.1	13.7	14.7	16.1																																																																																																																					
四角配置	A4	11.2	11.8	12.2	13.0	14.7																																																																																																																					
	B4	10.6	11.5	12.1	13.0	14.7																																																																																																																					
器具取付高さ		1.0m	1.5m	2.0m	2.5m	3.0m	4.0m	5.0m																																																																																																																			
階段配置	Y=1.0m	21x X+	5.5	6.5	7.3	7.9	8.4	9.0	9.3																																																																																																																		
		11x x	6.9	8.0	9.1	9.9	10.7	11.8	12.4																																																																																																																		
	Y=1.5m	21x X+	5.2	6.2	7.1	7.8	8.4	9.0	9.3																																																																																																																		
	11x x	6.7	8.0	8.9	9.8	10.6	11.8	12.4																																																																																																																			
	Y=2.0m	21x X+	4.7	6.0	6.9	7.6	8.3	9.0	9.2																																																																																																																		
	11x x	6.4	7.7	8.7	9.5	10.3	11.7	12.4																																																																																																																			



記 号	摘 要
—C—	PF (16)
□	アウトレットボックス 中四角浅型C付 角型カバープレート共
□ WP	アウトレットボックス 中四角浅型C付 角型防水カバープレート共
□	各住戸 電灯分電盤

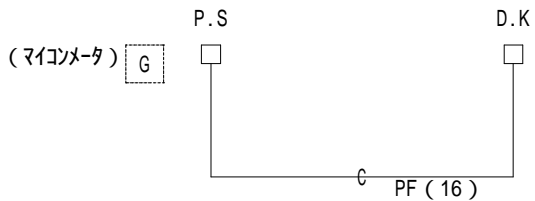


緊急呼出設備 (各戸) 系統図



リモコン 系統図

記 号	摘 要
—C—	PF (16)
□	アウトレットボックス 中四角浅型C付 ノズルプレート共



ガス漏れ警報設備 系統図

第1期工事該当部分

機 械 設 備 工 事 特 記 仕 様 書

工 事 概 要

1 工 事 場 所 鳥取県東伯郡琴浦町徳万620-23

2 建 物 概 要

番 号	建 物 名 称	構 造	階 数	建築基準法による延べ面積(㎡)	消防法施行令別表第一の区分	備 考
1	とうはくハイツ	RC	5	1,706.90	(5) 項 □	
2					() 項	
3					() 項	
4					() 項	
5					() 項	

3 工 事 種 目 (◎ 印の付いたものが対象工事種目)

工事種目 \ 番 号	1	2	3	4	5	屋外	備 考
● 空 気 調 和 設 備							
● 冷 暖 房 設 備							
● 換 気 設 備							
● 排 煙 設 備							
● 自 動 制 御 設 備							
◎ 衛 生 器 具 設 備	○						
● 給 水 設 備							
● 排 水 設 備							
◎ 給 湯 設 備	○						
● ガ ス 設 備							
● 浄 化 槽 設 備							
● 消 火 設 備							
● さ く 井 設 備							
● 電 気 設 備 工 事							
● 建 築 工 事							

4 設 備 概 要 (本工事における工事種目ごとの概要を示すもので、仕様を規定するものではない。)

◎ 印の付いたものを適用する。

	項 目	設 備 概 要
掲 掲 場 所 ・ 冷 暖 房 設 備	● 空 気 調 和 設 備	● 単一ダクト方式 ● 各階ユニット方式 ● ダクト併用ファンコイルユニット方式
	● 冷 暖 房 設 備	● ファンコイルユニット方式 ● パッケージ方式
	● 暖 房 設 備	● 温水暖房 ● 蒸気暖房 ● 温風暖房 (● 局所式 ● 中央式) ● 床暖房
	● 熱 源	● 電気 ● 灯油 ● A 重油 ● ガス ● バイオマス
	● 主 要 熱 源 機 器	● 銅製ボイラー ● 鉄製ボイラー ● 真空式温水発生機 ● 無圧式温水発生器 ● チリングユニット ● スクリュー冷凍機 ● 遠心冷凍機 ● 吸収式冷凍機 ● 直だし吸収式冷温水機 ● 小形吸収式冷温水機ユニット ● バイオマスボイラー ● ルームエアコン ● ヒートポンプパッケージエアコン (マルチタイプ ● 有 ● 無) ● 温風暖房機 ● F F 暖房機 ● その他 ()
換 気 設 備	● 第一種 ● 第二種 ● 第三種	
	排 煙 設 備	● 機械排煙 (適用法規 ● 建基法 ● 消防法)
	自 動 制 御 設 備	● 電気式 ● 電子式 ● デジタル式
	● 給 水 設 備	給 水 方 式 ● 水道直結方式 ● 高置水槽方式 ● ポンプ直送方式 ● 増圧給水方式 水 源 ● 水道水 ● 井水
	● 排 水 設 備	排 水 方 式 ● 自然流下 ● ポンプ排水 (● 汚水 ● 雑排水 ● 雨水) 放 流 先 汚 水 ● 公共下水道 ● 浄化槽 雑 排 水 ● 公共下水道 ● 浄化槽 雨 水 ● 公共下水道 ● 側溝 ● 河川 浄 化 槽 処 理 方 式 ● 小規模合併 ● 合併 処 理 水 放 流 先 ● 排水路 ● 側溝 ● 河川
給 湯 設 備	● 局所式 (● ガス ● 油 ● 電気) ● 中央式 (● 油 ● ガス ● 電気)	
	● 消 火 設 備	● 屋内消火栓 ● 屋外消火栓 ● 連結送水管 ● 連結散水 ● スプリンクラー ● 泡消火 ● 粉末消火装置 ● 不活性ガス消火 (● 窒素 ● 窒素系 ●) ● ハロゲン化物消火
	● ガ ス 設 備	● 都市ガス (MJ/Nm ³) ● 液化石油ガス

特 記 仕 様

1 一 般 事 項

- (1) 現場説明書、質問回答書、特記仕様書及び図面に記載されていない事項は、すべて国土交通省大臣官房官庁営繕部監修の標準仕様書等のうち、
◎ 印の付いたものによる。
◆ 公共建築工事標準仕様書 (機械設備工事編) (令和 4 年版) (以下「標準仕様書」という。)
◆ 公共建築改修工事標準仕様書 (機械設備工事編) (令和 4 年版) (以下「改修標準仕様書」という。)
◆ 公共建築設備工事標準図 (機械設備工事編) (令和 4 年版) (以下「標準図」という。)
(2) 国土交通省大臣官房官庁営繕部監修の「機械設備工事監理指針 (令和 4 年版) 」 (以下「監理指針」という。) を適用する。
(3) 電気設備工事及び建築工事を本工事に含む場合、電気設備工事及び建築工事はそれぞれの標準仕様書等及び監理指針を適用する。

2 特 記 事 項

- (1) 項目は番号に ○ 印の付いたものを適用する。
(2) 特記事項のうち選択する事項は ◎ 印の付いたものを適用する。
◎ 印の付かない場合は、印の付いたものを適用する。 ◎ 印と ○ 印の付いた場合は両方を適用する。
(3) 一般共通事項のうち (1、2、3、11、12、14、15、16、17、18、36) 項は、◎ 建 築 ● 電気設備 工事特記仕様書による。

一般共通事項

1官公署その他への手続

2電気保安技術者

3工事安全計画書等

④発生材の分析及び処理

⑤機材等

⑥機材の品質・性能証明

⑦機材の承諾図

⑧図形等の表示

⑨電気容量及び機器表示

⑩技能士の適用

11施工図等

12完成写真等

特記事項

工事の施工に伴い必要な官公署その他への手続き、検査並びにその費用は、請負者の負担とする。

工事現場におく電気保安技術者は、鳥取県総務部営繕工事自家用電気工作物保安規程第5条に定める工事担当技術者の職務を補佐し、当該工事の工事期間中自家用電気工作物の保安の業務を行うものとする。なお、電気保安技術者の資格は標準仕様書第1編第1章第3節1.3.2によるものとし、一般用電気工作物にかかる工事についても、自家用電気工作物の場合と同様の業務を行うものとする。

建設工事公衆災害防止対策要綱及び建築工事安全施工技術指針を参考に工事安全計画書を作成し監督職員に提出する。

引渡しを要するもの
無し●有り()
引渡しを要するもの以外は、構外搬出適切処理とする。

特別管理産業廃棄物
無し●有り●本工事において調査を行う
(●廃石綿(配管用保温材)●PCB使用機器●)
アスベスト含有設備資機材(ガスケット、パッキン、たわみ継手等の石綿含有廃棄物)は関係法令に従い適切に処理を行う。
PCB使用機器は関係法令等に従い適切に処理する。
撤去予定機器の微量PCB分析 無し●有り
再生資源化を図るもの
無し●有り(●コンクリート塊●アスファルトコンクリート塊●)
本工事に使用する設備機材等は、設計図面に規定するもの又はこれらと同等以上の品質及び性能を有するものとする。ただし、これらと同等以上のものとする場合は、設計図面に定める品質及び性能を有することの証明となる資料をあらかじめ監督職員に提出して承諾を受ける。なお、(一社)公共建築協会発行の「建築材料・設備機材等品質性能評価事業 設備機材等評価名簿」による場合は評価書の写しを監督職員に提出するものとする。

JIS等のマーク及び評価書のある機材を使用する場合は、標準仕様書第1編第1章第4節1.4.2(3)の品質及び性能を有することの性能を有することの証明となる資料の提出を省略できる。ただし、標準仕様書に規定される製作図、試験成績等は除く。

機械設備工事機材承諾図様式集(令和4年版)によるほか、監督職員の指示による。

機器類は、図示する形状、配管等などの取出し位置及び製造品番により、特定製造者の製品を指示、限定しない。

機器類の能力、容量等は、原則として表示された値以上とする。

電動機出力、燃料消費量等は、原則として図面に記載されている値以下とする。

下記により適用する技能士は、適用する工事作業中、1名以上の者が自ら作業をするとともに他の技能者に対して施工品質の向上を図るための作業指導を行う。また、そのものが技能士であることが分かる名札(下図参考)を常時着用する。

◎配管(◎1級●2級)●熱絶縁施工(●1級●2級)
●冷凍空調調和機器施工(●1級●2級)●建築板金(●1級●2級)

《技能士名札参考図》

55mm

技 能 士

写真(30×40程度)

技能士番号 00-0-000-00-0000

発 行

職 種 配管

作業名 建築配管作業

級 別 1級

氏 名 山 夫

勤務先 工務店

自 宅 鳥取市

90mm

技能士の職種により色を変えることも可

技能士の種別

技能士の級の別

技能士本人の住所地

名札の発行元

主要事項(職種、作業名、級別、氏名、住所地、技能士番号、発行元、本人写真)が記載してあればレイアウトは問わない。

提出した施工図等の著作権に係わる当該建物に限る使用権は発注者に移譲するものとする。

国土交通省大臣官房官庁営繕部監修の「工事写真撮影ガイドブック機械設備工事編 平成30年版」によるほか、監督職員の指示による。下記のものを提出する。

区 分	分類・規格	撮 影 箇 所	部 数	電子データの提出
工 事 写 真	カラーサービス判	各工種工程毎	1部●部	●要●不要
完 成 写 真	カラーサービス判	監督職員の指示による	2部●部	●要●不要

一 般 共 通 事 項

⑬ 完 成 図 等

区 分	名 称	部 数
完 成 図 原 図	完成図 ● 原紙 ○ C A D データ ○ P D F データ 施工図 ● 原紙 ◎ C A D データ ◎ P D F データ	1 部
完成図 2 つ折製本	○ 完成図 ○ 完成図 (縮小版) ◎ 施工図	2 部 ● 部
完成図書 A 4 版市販ファイル ● A 4 版黒表紙製本	◎ 完成図 (縮小版) ○ 主要機器図 ○ 試験成績書	2 部 ● 部
保守用説明書 (A 4 版ファイル)	保守に関する指導案内書 機器取扱説明書 主要機器一覧表	2 部 ● 部
保 証 書		1 部
官公署の届出書類		1 部
● 原図ケース・製本図面の背表紙に「施設コード・部局名称」ラベルを貼り付ける。		

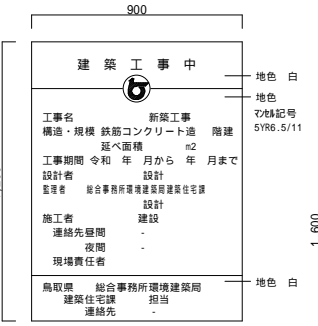
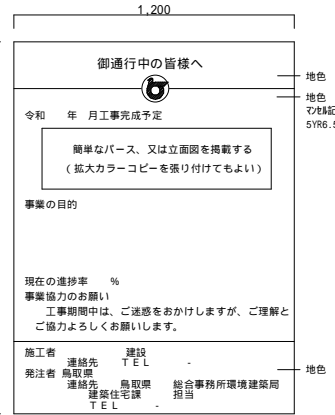
14 他 工 事 と の 取 合

他工事との取合い		建 築	電気設備	機械設備
● コンクリート壁、床、梁貫通部	スリーブ・箱入	●	●	
	補 強		●	●
● 鉄骨造の開口及び補強			●	●
● 照明器具・幹線等の吊りボルト用インサート (くき処理共)			●	●
● 軽量鉄骨製のボックス取付用下地			●	●
● 埋込分電盤・端子盤・ブルボックスの仮枠及び埋込部分の補強	仮 枠	●	●	
	補 強		●	●
● O A フロア・フリーアクセスフロアの切込み及び補強			●	●
● 埋込形機器取付用の天井・壁の切込加工及び下地の補強	切 り 込 み	●	●	
	補 強		●	●
● 自動開閉装置を取付ける防火戸の切込み、補強及びドアクロザ、フロアヒンジ			●	●
● 電気室、自家発電室などの基礎及びピット (蓋を含む)			●	●
● 天井点検口			●	●
● 機器類のコンクリート基礎	屋内・屋外設置	●	●	
	屋 上 設 置		●	●
● 機器付属の制御盤及び操作盤から機器までの配線			●	●
● 機器用コントロールスイッチ (空調機、給湯器等) の取付及び配線			●	●

15 工 事 用 水 ・ 電 力 ・ そ の 他

16 表 示 板

本工事に必要な工事用電力、水及び諸手続きなどの費用はすべて受注者の負担とする。
設ける。(寸法等は下図による。建築工事、電気設備工事等と一緒に表示する。)

工事表示板	● お願い表示板
	

記入要領

- 書体は角ゴシックとする。
- お願い表示板は平易な表現及び内容とし、監督員が指示するものとする。

17 足 場

「手すり先行工法等に関するガイドライン」に基づく足場の設置にあたっては、同ガイドラインの別紙 1「手すり先行工法による足場の組立て等に関する基準」における 2 の (2) 手すり据置き方式又は (3) 手すり先行専用足場方式により行う。

18 工 事 用 仮 設 物

構内に作ることが出来る ● 出来ない
(ア) 埋め戻し土 ● 根切土のなかの良質土 (● コンクリート管以外の管の周囲は山砂の類)
● 山砂の類 ()
● 真砂土 ()

19 土 工 事

(イ) 建設発生土処分 ● 構外に搬出 ● 構内に敷ならし ● 構内の指示する場所に堆積
● 冷温水管 (● ロックウール ● グラスウール ● ポリスチレンフォーム ●)
● 蒸気管 (● ロックウール ● グラスウール ●)
● 給水管 (● ロックウール ● グラスウール ● ポリスチレンフォーム ●)
● 保温チューブ (厚さ @) ●

20 保 温 工 事

● 排水管 (● ロックウール ● グラスウール ● ポリスチレンフォーム ●)
● 給湯管 (● ロックウール ● グラスウール ● 保温チューブ (厚さ @))
● 消火管 (● ロックウール ● グラスウール ● ポリスチレンフォーム ●)
● ダクト (● ロックウール ● グラスウール ●)
● 燃焼熱源等機械室内の配管 (● ロックウール ● グラスウール)
● 全熱交換機の給気ダクト (● 機器外気側 ● 機器室内側) は保温 (グラスウール 2 5 mm 厚) する。
● 冷媒管の保温外装 屋内 (● 樹脂製化粧ケース ● 合成樹脂製シート ●)
屋外 (● 樹脂製化粧ケース ● S U S 鋼板 ●)

HEAD

CHIEF

DRAW

TITLE

とうはくハイツ改修工事

機械設備特記仕様書 (1)

S

NO SCALE

ARCH

有限会社 アーク設計工房

一級建築士 第262287号 杉嶋 信次

TEL 0858-52-3599/FAX 0858-52-3599

琴浦事務所

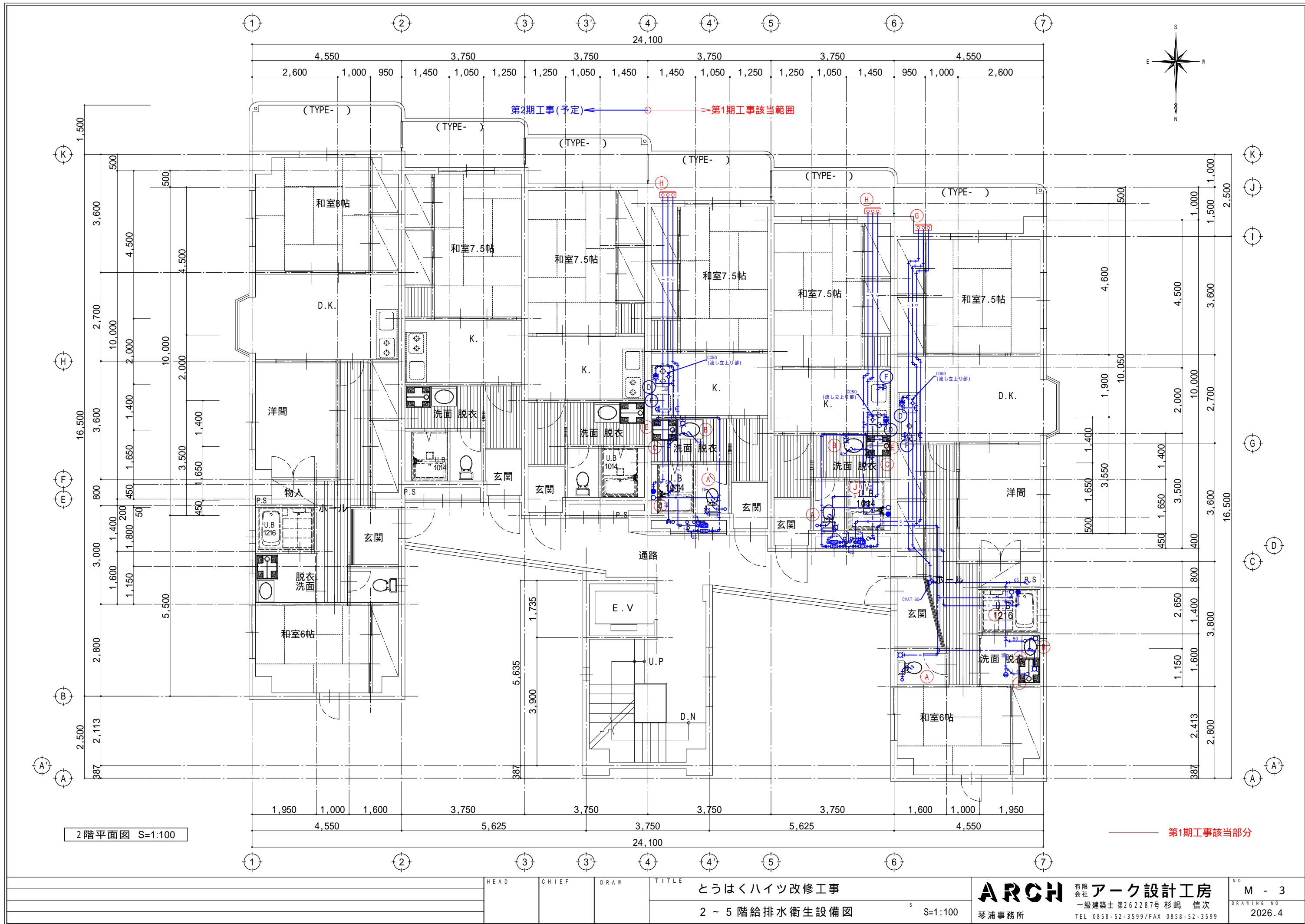
NO.

M - 1

DRAWING NO

2026.4

[illegible]



				HEAD	CHIEF	DRAW	TITLE	ARCH 有限会社 アーク設計工房 一級建築士 第262287号 杉嶋 信次 琴浦事務所 TEL 0858-52-3599/FAX 0858-52-3599	NO. M - 3 DRAWING NO 2026.4
							とうはくハイツ改修工事 2 ~ 5 階給排水衛生設備図 S=1:100		

改修前 衛生器具表

符号	品名	品番	附属品・その他	1住戸 当り 数量	全体 数量
A	腰掛大便器 撤去・処分・取替	C 730P	S731B、TS731ZSN、TC262N、Y9201 TS116SP、他附属金具1式	1	12
B	洗面化粧台 撤去・処分・取替	LDSB 600ZD	LMB600L 立水栓、止水栓、ストラップ 他附属金具1式	1	12
C	洗濯機用パン 撤去・処分・取替	PWA 801CASB	縦引きトラップ 付	1	12
D	湯水混合栓	TK 210B	既存のまま	1	12
E	ホム水栓 撤去・処分・取替	T 200S	13A	1	12
F	ヒューズ コック	二口	15A 座付L型 既存のまま	1	12
G	ガス給湯器 撤去・処分・取替	3DK TYPE該当 RGH 250HB	屋外壁掛25型、メインコントローラ、フロントローラ、配管加へ 止水栓、可とう管コック(フル付) コントローラは配管、配線工事を含む	1	4
H	ガス給湯器 撤去・処分・取替	1K TYPE該当 RGH 160HB	屋外壁掛16型、メインコントローラ、フロントローラ、配管加へ 止水栓、可とう管コック(フル付) コントローラは配管、配線工事を含む	1	8
I	エットハス 撤去・処分・取替	3DK TYPE該当 UB1216	換気扇、天井点検口、標準附属品一式共 TOTO JH1216 94	1	4
J	エットハス 撤去・処分・取替	1K TYPE該当 UB1014	換気扇、天井点検口、標準附属品一式共 TOTO JH1014 94	1	8

改修後 衛生器具表

符号	品名	品番	附属品・その他	1住戸 当り 数量	全体 数量
A	腰掛大便器	CS215BPR	SH215BAJS(12戸)、SH215BAJS(12戸)、HH11292 TCF4714AK、YH501FMR	1	12
B	洗面化粧台	LDBA060BAGDS1A	水栓金具：単水栓、止水栓、ストラップ、扉カバー：ホワイト 化粧鏡(一面鏡・LEDランプ・エコミラー) LMBA060B1GDC1G	1	12
C	洗濯機用パン	PWP800N2W	縦引きトラップ (PJ002) 共	1	12
D	湯水混合栓	TK 210B		1	12
E	洗濯機用水栓	TW11R	13A	1	12
F	ヒューズ コック	二口	15A 座付L型	1	12
G	ガス給湯器	3DK TYPE該当 RUX-E2406W(A)	屋外壁掛24型、メインコントローラ、フロントローラ、配管加へ 止水栓、コントローラは配管、配線工事を含む	1	4
H	ガス給湯器	1DK TYPE該当 RUX-E1616W(A)	屋外壁掛16型、メインコントローラ、フロントローラ、配管加へ 止水栓、コントローラは配管、配線工事を含む	1	8
I	エットハス 建築工事にて計上	3DK TYPE該当 UB1216 WSV1216JTX3AK	換気扇、天井点検口、既存開口用窓枠400×600 アルミ片開き戸W=700、シャワー、握りバー×2、	1	4
J	エットハス 建築工事にて計上	1DK TYPE該当 UB1014 WSV1014JSX3BK	換気扇、天井点検口、収納 アルミ片開き戸W=700、シャワー、握りバー×2、	1	8